



基幹研究

共同研究【王朝文学の流布と継承】

プロジェクト代表者：田淵句美子

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、落合博志、加藤昌嘉、久保木秀夫、齋藤真麻理、横井孝（当館客員教授・実践女子大学教授）、浅田徹（お茶の水女子大学助教授）、安達敬子（京都府立大学助教授）、藤島綾（元 統計数理研究所非常勤職員）、上野洋三（九州大学教授）、勝俣隆（長崎大学教授）、神作研一（金城学院大学教授）、日下幸男（龍谷大学教授）、小林一彦（京都産業大学教授）、坂巻理恵子（大正大学非常勤講師）、佐藤信子（当館機関研究員）、妹尾好信（広島大学助教授）、田野慎二（広島国際大学助教授）、鶴崎裕雄（帝塚山学院大学名誉教授）、西本寮子（県立広島大学教授）、原豊二（米子工業高等専門学校講師）、福田景道（島根大学教授）、藤田洋治（東京成徳短期大学教授）、古瀬雅義（安田女子大学助教授）、松原一義（鳴門教育大学教授）、安原真琴（立教大学文学部助手）、山本登朗（関西大学教授）、小川陽子（日本学術振興会特別研究員）[研究協力者]

(1) 概 要

平安期を中心に成立した王朝文学が、中世、そして近世期において、どのように流布し継承されたのか、現在我々が手にしている王朝文学は、どのような享受と変容、展開の上に成立したのか、その諸相を明らかにする。

具体的には、『古今和歌集』『伊勢物語』『源氏物語』『栄花物語』『新古今和歌集』その他の王朝文学の、流布と継承、近世的展開などについて、個別作品論の枠内にのみ留まらない写本・版本というメディアによる展開と流布の諸相の把握、中世・近世期における王朝文学の定位と展開の位置づけ、そこからの古態への遡及あるいは逸文・逸書の復元の可能性などをめぐる検証を行い、できるだけ縦断的に、また具体的かつ総合的に検証することを目的とする。

(2) 活動記録

① 共同研究会の実施

平成 18 年度は共同研究会を 2 回実施した。

a. 第 1 回共同研究会（5 月 26 日）

当該研究の目的と意義について説明したのち、今後の方針や具体的な進め方について討議した。

b. 第 2 回共同研究会（12 月 25 ～ 26 日）

メンバー 5 名の研究発表を行った。発表者名・題目は次のとおり。

(1) 久保木秀夫「『栄花物語』本文再考」、(2) 加藤昌嘉「和歌の書記法」、(2) 安達敬子「反『源氏物語』としての『松浦宮物語』」、(4) 坂巻理恵子「『新古今和歌集』版本の基礎的研究」、(5) 小川陽子「物語目録の生成と展開」。

それぞれについて活発な質疑応答が行われた。

② 当館マイクロ収集資料の調査

当館マイクロ収集資料の中から、本研究のテーマに即し、かつメンバー各人の専門に関わる紙焼写真を作成し、記載内容等に関する調査を開始した。

③ 原本調査

各種資料のより詳細な書誌情報を必要とするメンバーが、宮内庁書陵部・鉄心斎文庫・神宮文庫・大阪市立中央図書館における原本調査を実施した。

【19 世紀における出版と流通】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：大高洋司、山下則子、青田寿美、木戸雄一、青木稔弥（当館客員教授・神戸松蔭女子学院大学教授）、勝又基（明星大学講師）、加藤禎行（山口県立大学講師）、菊池庸介（学習院大学非常勤講師）、木田隆文（龍谷大学特別任用講師）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、島田大助（豊橋創造大学助教授）、杉浦晋（埼玉大学助教授）、鈴木俊幸（中央大学教授）、関肇（京都光華女子大学助教授）、津田真弓（日本女子大学非常勤講師）、十重田裕一（早稲田大学教授）、長尾直茂（上智大学助教授）、中丸宣明（山梨大助教授）、樋口恵（私立開智中学校・高等学校教諭）、山本和明（相愛大学教授）、山本陽史（明海大学教授）、湯浅佳子（東京学芸大学助教授）、ロバート・キャンベル（東京大学助教授）、渡辺麻里子（弘前大学講師）、磯部敦（日本学術振興会特別研究員）[研究協力者]

(1) 概 要

従来の書籍の出版と流通に関する研究は、一般に書物を出版し、流通させる側に視点を置いたものであり、それらを実際に手にして読んだ人々のことはほとんど考察されてこなかった。

本研究は、国文学研究資料館の調査・収集の成果の中に、明治維新を挟んで三都以外のある地点で継続的に集積され、読まれてきた書籍群が存在することに着目し、それらの書物がどこからどのような経路でそこにもたらされたのかを探ることによって、読者の書籍へのアクセスが近世と近代とでどのように変容したのかを研究する。その結果を踏まえ、19 世紀日本における書籍・逐次刊行物の出版と流通の実態に即しつつ、読書行為の前提となる基本的問題の構造を明らかにすることを目的とする。

(2) 活動記録

① 共同研究会の実施

平成 18 年度は共同研究会を 2 回行った。

a. 第 1 回研究会（5 月 26 日）

内容：谷川恵一：全体の概要、木戸雄一：各文庫の概要、木戸雄一：研究計画説明、担当者の決定及び要望・意見

b. 第 2 回研究会（12 月 18 日）

内容：木戸雄一：江差町教育委員会関川家文書調査報告、谷川恵一：弘前市立図書館蔵読書会文書概要報告、青田寿美：寄贈者素描—酒田市立光丘文庫調査報告一、田口寛くオブザーバー：古典作業進捗状況報告、木戸雄一：八戸市立図書館八戸青年会文書概要報告、研究計画修正に関する打合せ

② 基礎資料の整理

古典と近代の二部門で、それぞれ調査記録の整理を開始した。

a. 古典

酒田市立光丘文庫の調査カードに記載されている、蔵書印ほか流通研究に有為なデータを整理し、併せて紙焼き写真によるデータの確認を行った。

b. 近代

弘前市立図書館の調査カードに、調査画像から売捌書肆のデータを転記した。



研究プロジェクト

1. 文学資源研究系

【総括】

文学資源研究系では、原本資料の書誌的調査・整理を踏まえ、特定コレクションの目録化の研究、和刻本（日本で刊行された漢籍）の研究、近世後期小説（読本・人情本・実録）の様式把握のための研究、『夫木和歌抄』を中心とする類題和歌集の構築・享受の研究という、4つのプロジェクト研究が進行している。本年度は、このうち3つのプロジェクトが外部研究者を加えた共同研究として行われており、もうひとつについてもその可能性を模索中である。

これらはいずれも平成16年度に発足し、本年度は3年目にあたるが、各プロジェクト共、メンバーの入れ替わり等の小規模な変動はあったものの、内容上の大きな変更は認められない。本年度については、館内のプロジェクト発表会や外部の学会等における個別の成果報告を除いては、いずれも具体的な成果物を刊行していないが、4年目にあたる来年度を大きな節目と考えており、各プロジェクトの研究活動の一層の充実と、目に見える成果の提示とを心がけている。

【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】

プロジェクト代表者：鈴木 淳

プロジェクト参加者：井田太郎、エリス・ティニオス（外国人研究員・リーズ大学名誉講師）、
檜山裕子（当館機関研究員）、浅野秀剛（千葉市美術館学芸課長）、
岩切友里子（国際浮世絵学会会員）、佐藤悟（実践女子大学教授）、
ロバート・キャンベル（東京大学助教授）

(1) 概要

国内外に存在する各種コレクションの原本資料の調査及び書誌データの分析に基づいた書誌的研究や目録化の研究。田安德川家日本古典籍書誌目録、国文学研究資料館蔵絵本及びドイツ国ゲルハルト・プルヴェラー蔵日本絵本コレクションの解題目録の整備などを課題とする。

(2) 活動記録

本研究は、田安德川家日本古典籍の目録化の完了を受けて、本年度から絵本・画譜類の研究を中心に、以下のように進めている。

- ・共同研究会の実施
- ・打ち合わせ会の実施
- ・原本調査
- ・絵本の書誌データの整理。

① 共同研究会の実施

共同研究会を8月16日、12月22日の2回実施した。第1回の発表は、佐藤悟「『武道色八景』と浅草霊験記一付、『新撰大団扇』について」、浅野秀剛「歌麿の狂歌絵本と後修本」、

ロバート・キャンベル「近世後期の画譜と詩文」、第2回の発表は、岩切友里子「絵馬図譜と武者絵本」、井田太郎「一蝶のイメージ」。

② 打ち合わせ会の実施

コア・メンバー（鈴木、井田、檜山、岩切）によって、7月26日、9月22日、11月7日、2月22日の4回実施した。プロジェクトの運営に関する打ち合わせとして、共同研究会の準備、シンポジウム（平成20年開催）の準備、各メンバーの研究状況の報告及びプレ発表、当館所蔵絵本の調査状況の報告などを行った。

③ 原本調査

鈴木、井田は科学研究費補助金等による海外所蔵機関（米国ボストン美術館、仏国ギメ美術館等）の調査を行い、その成果の一部を反映させた。また檜山は国立国会図書館で絵本の調査を実施した。

④ 絵本の書誌データの整理

当館所蔵及び独国ケルンのゲルハルト・ブルヴェラー・コレクションの日本絵本について、書誌情報の整理を進めた。

本年度は、絵本・画譜類の研究に焦点を絞って進めるために、共同研究員の組織も一新し、7月の機関研究員の採用を機に本格的に始動した。特に、研究の基礎を確立させるために、コア・メンバーによる打ち合わせ会を定期的に開くことに重点を置いたが、反面、共同研究会を2回しかできなかったことは反省点である。その他、計画は順調に進んでいる。

【和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究】

プロジェクト代表者：山崎 誠

プロジェクト参加者：陳捷、入口敦志、山田直子、青木隆（当館客員助教授・日本大学助教授）

プロジェクト補助者：関明子（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

日本で刊行された中国の書物「和刻本」のうち、五山版と近世初期刊本を対象とする書誌的な研究。各種目録類からデータ集積を図り、当該本の書誌情報や書影などの索引の作成、和刻本を通して見た日中書籍交流史の研究を課題とする。

(2) 活動記録

平成18年は、年次計画に沿って次の業務を推進してきた。

① 五山版・近世初期刊本の書誌情報の整備

平成17年に引き続き、五山版、近世初期刊本の書誌データと、それに関する研究論文、書影索引などの情報を織り込んだ基本台帳の作成。

② 和刻本漢籍データベースの作成

長沢規矩也氏『和刻本漢籍分類目録』と『和刻本漢籍分類目録補正』の書誌データを入力し、それを基礎として、和刻本漢籍のデータベースを作成する。

③ 当館調査・収集資料による和刻本データの整理

平成17年度に完成した分に引続きデータの点検と入力を進め、点検・入力とも終えた。

④ 研究文献目録の作成

和刻本に関する研究文献の調査・収集を行ってきた。国文学関係の論著と学術雑誌の他に、日本の中国文学・思想史・東洋史などの関係論文の調査・収集をも進めてきた。

⑤ 和刻本漢籍研究会を4回実施した。毎回の研究会では、報告と討論の後、研究チームの近況報告、基本作業と研究における問題点についての議論を行った。

a. 第6回和刻本研究会 6月29日(木) 15:00～17:30

場 所：国文学研究資料館2階208室

報告者：陳捷

テーマ 和刻本漢籍調査のデータシートについて一和刻本漢籍の実状を把握するために

報告者：山田直子

テーマ 中国と日本の書誌学用語の比較

b. 第7回和刻本研究会 7月6日(木) 15:00～17:30

場 所：国文学研究資料館1階大会議室A

報告者：呉平（華東師範大学図書館古籍部主任）

テーマ 盛宣懷と愚斎図書館

c. 第8回和刻本研究会 7月25日(火) 15:00～17:00

場 所：国文学研究資料館2階中会議室

報告者：小曾戸洋（北里研究所東洋医学総合研究所教授）

テーマ 和刻本の医書について

d. 第9回和刻本研究会 10月4日(水) 13:30～16:30

場 所：国文学研究資料館1階大会議室A

報告者：徐興慶（台湾大学日本語学科教授）

テーマ 台湾における日本文学と日本漢学の研究状況

【学芸書としての中世類題集の研究 ―『夫木和歌抄』を中心に―】

プロジェクト代表者：田淵句美子

プロジェクト参加者：小川剛生、齋藤真麻理、久保木秀夫、石澤一志（鶴見大学非常勤講師）、

伊藤善隆（湘北短期大学専任講師）、大谷俊太（奈良女子大学教授）、

三戸信恵（サントリー美術館学芸員）、鈴木健一（学習院大学教授）、

鈴木元（熊本県立大学助教授）、福田安典（愛媛大学助教授）、三村晃功

（京都光華女子大学学長）、渡邊裕美子（宇都宮大学非常勤講師）

プロジェクト補助者：大内瑞恵（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

鎌倉時代成立の『夫木和歌抄』は一万七千首余を収める中世最大の私撰和歌集であり、散佚資料の宝庫としても使われてきたが、その集としての特質や享受については殆ど研究がなされていない。本研究では『夫木和歌抄』を単なる和歌集成書としてではなく一つの作品として捉え、その知の体系の構築と、後世の学芸諸領域に於ける享受の具体相とを明らかにする。具体的には、和歌史・学芸史・文学史の中において、その文化史的位置づけを行いつつ、特質と享受を明らかにすることを目的とする。また関連する類題集などの資料・比較資料も視野に入れて研究を進める。

(2) 活動記録

① 共同研究会の実施

本研究では『夫木和歌抄』及び関連の類題集について、次のような視点を基底におきながら、

共同研究を進めている。1) 重要な伝本・抄出本の調査と研究、2) 編纂資料の研究、及び出典注記などに基づく散佚資料の復元研究、3) 題の設定及び左注をめぐる諸問題、4) 中世及び近世の類題集・私撰集の中での位置づけ、5) 本書編集の意図とその成立事情。特に編者・文化圏の解明、6) 室町から近世までの本書享受の具体相とその資料。特に学芸・連歌・俳諧・絵画への影響の解明、7) 版本・抜書類の形成と流布。これらを踏まえ、平成 18 年度から、研究発表と討議を中心とする本格的な共同研究を開始した。

共同研究会は 2 回実施した。第 1 回目：8 月 30 日。メンバー 2 名の研究発表を行った。発表者・題目は次のとおり。(1) 鈴木健一氏「近世における類題集とその歌題の展開」、(2) 福田安典氏「近世期における『夫木和歌抄』—西順を中心に—」。第 2 回目：12 月 22 日。メンバー 2 名の研究発表が行われた。(1) 伊藤善隆「名所付合語集『武蔵野』について」、(2) 齋藤真麻理「異類の歌合」。それぞれについて活発な質疑応答が行われた。

② 原本調査

昨年度までに当館蔵となった伝後小松院筆『夫木抄』残欠本・『二八明題集』・『室町中期連歌学書』、また本年度購入した『類題和歌高調集』についてデジタル撮影し、書誌・内容に関する調査を開始した。また大阪府立中之島図書館・島原松平文庫などにおける原本調査も実施した。

【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：飯倉洋一（大阪大学大学院教授）、勝又基（明星大学専任講師）、菊池庸介（学習院大学非常勤講師）、木越俊介（山口県立大学専任講師）、小二田誠二（静岡大学助教授）、近藤瑞木（首都大学東京助手）、鈴木圭一（神奈川県安全防災局交通安全対策課主任）、高橋圭一（大谷女子大学教授）、田中則雄（島根大学助教授）、津田真弓（日本女子大学非常勤講師）、濱田啓介（京都大学名誉教授、花園大学客員教授）、檜山裕子（青山学院高等部非常勤講師）、藤澤毅（尾道大学助教授）、二又淳（明治大学非常勤講師）、山本誠（静岡県立藤枝北高等学校教諭）、山本卓（関西大学教授）、湯浅佳子（東京学芸大学教育学部助教授）

プロジェクト補助者：金時徳（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

江戸時代後期の小説類のうち、読本、人情本、実録を対象とし、それらを小説様式のレベルで把握するための基礎的作業として、各機関所蔵資料の書誌的整理を行う。

新たな分類方法の検討に基づく読本の図録解題、文政期人情本解題、実録解題原案の作成などを課題とする。

(2) 活動記録

① 共同研究会

a. 第 1 回共同研究会 8 月 1、2 日

場 所：国文学研究資料館 1 階大会議室 B

・ 8 月 1 日

1) 大高洋司「活動報告」

2) 発表・菊池庸介「実録から絵入読本へ—速水春曉斎の作品を例に—」

3) 発表・大高洋司「〈稗史もの〉読本の様式形成と『桜姫全伝曙草紙』」

・ 8月2日

1) 大高洋司「読本事典・実録解題・文政期人情本解題のまとめ方についての相談」

2) 発表・鈴木圭一「梅暦の読本的趣向と読本離れ」

参加者：大高洋司、飯倉洋一、勝又基、菊池庸介、木越俊介、小二田誠二、近藤瑞木、鈴木圭一、高橋圭一、田中則雄、津田真弓、濱田啓介、檜山裕子、藤澤毅、二又淳、山空誠、山本卓、湯浅佳子、金時徳、ダニエル・ストリューブ、藤川雅恵、土屋順子、一戸渉、大屋多詠子、紅林健志、佐藤藍子、山名順子、渡辺さやか

b. 第2回共同研究会 1月7、8日

場 所：国文学研究資料館2階中会議室

・ 1月7日

1) 大高洋司「活動報告」

2) 発表・藤澤毅「外形的書式（書式）と内容的書式（様式）」

3) 発表・田中則雄「読本における「上方風」とは何か」

・ 1月8日

1) 大高洋司「読本事典・実録解題・文政期人情本解題のまとめ方についての相談」

2) 発表・山本卓「『絵本宇多源氏』をめぐってー絵本読本成立の頃」

参加者：大高洋司、飯倉洋一、菊池庸介、木越俊介、小二田誠二、鈴木圭一、高橋圭一、田中則雄、津田真弓、濱田啓介、檜山裕子、藤澤毅、二又淳、山本卓、湯浅佳子、金時徳、一戸渉、大屋多詠子、金学淳、紅林健志、佐藤藍子、山名順子、渡辺さやか

② 「読本事典」のための解題執筆（83点、11名分担）を進行させ、同事典図版のための館蔵本デジタル撮影を行った。解題原稿の分担執筆は、今年度中に終了予定である。

③ 武藤元昭氏より、ご所蔵の人情本等108点を貸与され、サンプルデータのデジタル撮影を行った。「文政期人情本解題」他に使用の予定。

2. 文学形成研究系

【総括】

文学形成研究系では、以下に記す4つの研究プロジェクトを推進した。共同研究に向けての個々の準備研究、資料整備、共同研究会の開催など、いずれもほぼ順調な進行状況であった。

「本文共有化の研究」は、評価を含む研究成果報告『本文共有化の研究』（A4版164頁）を年度末に発行、関係諸機関・研究者に配布し、本年度をもって終了した。「平安文学における場面生成研究—物語の生成と受容—」研究プロジェクトは、研究成果報告『物語の生成と受容②』（A5版251頁）を年度末に発行し、関係諸機関・研究者に配布した。「近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」プロジェクトは、展示とシンポジウムを開催し、年度末に『近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究』（A4版110頁）を発行し、関係諸機関・研究者に配布した。「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクトは、「歴史人物データベース」を補完し、善通寺の調査を継続実施するとともに、次年度から外部研究者を加えた共同研究とするための諸準備を開始した。

本年度は3点の研究成果報告を発行したが、その内容は完成した研究論文、研究発表記録、研究資料、評価など多岐にわたっている。次年度以降は、これらに改訂や増補を加え、とりまとめた成果を市販の書籍・雑誌の形で刊行することを目指している。

【古典形成の基盤としての中世資料の研究】

プロジェクト代表者：武井協三

プロジェクト参加者：落合博志、齋藤真麻理、相田満

プロジェクト補助者：伊藤潤（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

日本の古典文化の原型が確立した中世期の文学事象を対象に、「古典」なるものの意味を包括的にとらえ直すための研究。書籍や記録類、人物の伝記や図像類など中世資料の調査研究を通して、古典形成の基盤を探る。

(2) 活動記録

平成16年度から平成17年度にかけては「人物・キャラクター」に関する研究を重点的に進めた。研究の基盤資源として「歴史人物データベース」の構築と開発を進め、平成17年12月にデータベースをオンライン公開に供した。さらに検索機能付きデータベースソフト（DVD）を付した研究論文4本と解説から成る研究成果報告を作成し平成18年3月に刊行して、本研究プロジェクト第一期の総括とした。データベースの内容は、約100作品より取材し3,000名延べ5,000件の人物画像データベースに加え、芳賀人名辞典・地下家伝全データベースを統合して搭載。異体字・異称にも対応した高機能のデータベースとなった。

以上の平成17年度までの成果に基づき、平成18年度には上記データベースの改訂版「歴史人物画像データベース・桜版」の作成を行った。またオンライン公開においては、平成18年度末に、改訂版DVD搭載データをデータベースに反映させるほか、典拠作品、及び当館所蔵マイクロ資料についての人物伝記解題の一部をXML化して搭載するため、研究と作業を進めた。

第二期の研究主題となる「書籍」については、善通寺収蔵資料の全貌を把握するための調査と

研究を進めている。平成 18 年度には 2 回にわたって調査を実施したが、同寺院において新たな資料が大量に出現したため、調査の完成は次年度以降に繰り越すことになった。善通寺における要調査資料は 1 万点を超えると予想されるが、現段階で 9,000 点弱の調査を済ませている。今後、年 2 回調査を実施して、平成 20 年度には調査を完了させ、目録の作成など仕上げの段階に入る予定である。なお、中間報告として「善通寺の聖教とその形成」を科学研究費補助金基盤（B）研究報告書『小野随心院所蔵の文献・図像調査を基盤とする相関的・総合的研究とその展開』Vol.Ⅱに掲載した。

本研究プロジェクトは次年度から共同研究として位置づけることとした。そのため館外からの新たな参加者を求めて、調査と交渉を実施した。また、次年度には海外（台北）と国内（名古屋）において「人物・キャラクター」をテーマとするシンポジウムを開催することとし、その計画の策定を行った。

【本文共有化の研究】

プロジェクト代表者：武井協三

プロジェクト参加者：中村康夫、山下則子、伊藤鉄也、落合博志、加藤昌嘉、相田満、江戸英雄、岩城賢太郎（当館機関研究員）、松本智子（当館外来研究員）

プロジェクト補助者：森田直美（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

本プロジェクトは、日本文学の研究や鑑賞に不可欠な、古典本文の提供のあり方を研究するものであり、複製、影印、翻刻、校訂、デジタル化など、古典本文を提供するための各種方法について検討してきた。実験的に本文を提供し、学界から評価を得、それをもとにして、それぞれの方法の問題点を摘出、より適切な本文提供の形態を研究することがこのプロジェクトの主な活動であった。

本プロジェクトは、平成 18 年度で終了するが、本文提供の形態と方法について問題点を摘出し、一定の指針を打ち出すことができた。

(2) 活動記録

平成 16 年度は、水戸光圀の和文叢書『扶桑拾葉集』の本文を提供した。『扶桑拾葉集』は明治期に出版された活字本があるが、すでに入手困難、コピーして揃えるにも大部すぎるものである。この大部な資料を縦横に利用する方法を探るため、これをまずコンパクトな 1 冊に活字化してまとめた。あわせてフルテキスト・データベースに作り、CD に収めて本に付載した。平成 17 年度は、約 17,000 首という膨大な歌数を収め、本文に多様な問題が残る『夫木和歌抄』によって、諸本対校を視野に入れた本文提供を行った。具体的には、諸本のうち国文学研究資料館蔵の版本 1 本、写本 1 本、さらに個人蔵の零本 1 巻を、すべてフルテキスト・データベースに作り、あわせて九州大学蔵の『夫木溪雲抄』を活字化して冊子とした。

平成 17 年度から 18 年度にかけて、研究会は計 5 回にわたって開催し、中世芸能資料や近世版本の本文提供について発表と討議を行った。また『扶桑拾葉集』と『夫木和歌抄』についてのアンケート調査をもとに、本文提供の素材と方法について検討し、館外の参加者も加えて、プロジェクトの評価を中心とする研究会を行った。

3 年間の成果報告とその評価を掲載した「本文共有化の研究成果報告」（163 頁）を 3 月末に刊行した。

① 共同研究会記録

- a. 平成 17 年 9 月 8 日 第 1 回「本文共有化の研究」プロジェクト研究会
 - ・「『データベース懇談会報』全 65 号から」中村康夫
 - 出席者：相田満、江戸英雄、落合博志、加藤昌嘉、武井協三、中村康夫、松本智子
- b. 平成 17 年 11 月 2 日 第 2 回「本文共有化の研究」プロジェクト研究会
 - ・「謡曲データベースの現状」落合博志
 - ・「『扶桑拾葉集』データベースについて」松本智子
 - 出席者：相田満、伊藤鉄也、江戸英雄、落合博志、加藤昌嘉、武井協三、中村康夫、松村雄二、松本智子、山下則子
- c. 平成 18 年 2 月 15 日 第 3 回「本文共有化の研究」プロジェクト研究会
 - ・「現存謡本の系統―揃い本を中心とする―」落合博志
 - 出席者：相田満、入口敦志、江戸英雄、落合博志、加藤昌嘉、武井協三、中村康夫、松本智子、山下則子
- d. 平成 18 年 9 月 11 日 第 4 回「本文共有化の研究」プロジェクト研究会
 - ・「『歌舞伎評判記集成』の翻刻作業について」原 道生
 - 出席者：相田満、入口敦志、一戸渉、岩城賢太郎、江戸英雄、大内瑞恵、齋藤真麻理、鈴木淳、鈴木博子、武井協三、中村康夫、原道生、松本智子、光延真哉、山下則子
- e. 平成 18 年 10 月 31 日 第 5 回「本文共有化の研究」プロジェクト研究会
 - ・「『夫木和歌抄』データベースについて」松本智子
 - ・「『夫木和歌抄』データベース DVD について」齋藤真麻理
 - ・「『夫木和歌抄』データベースについて」近藤泰弘
 - 出席者：相田満、井田太郎、岩城賢太郎、近藤泰弘、齋藤真麻理、鈴木博子、武井協三、中村康夫、松本智子、山下則子

【平安文学における場面生成研究】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、加藤昌嘉、江戸英雄、岩城賢太郎（当館機関研究員）、金光桂子（大阪市立大学大学院講師）、高橋由記（明星大学非常勤講師）、中川照将（皇學館大学講師）、萩野敦子（琉球大学助教授）、松岡智之（静岡大学助教授）、横溝博（日本学術振興会特別研究員）

(1) 概 要

平安～鎌倉時代に作られた物語作品を主な対象とし、物語を構成する「場面」に着目しながら、平安物語の生成状況と受容状況を研究する。具体的には、『うつほ物語』『源氏物語』『狭衣物語』『夜の寝覚』『住吉物語』『栄花物語』等について、「成立」「流布」「改作」「異文」「注釈」「校訂」「翻訳」「絵画化」といった視点で考察を進め、各作品論にとどまらぬ総合的究明を行い、平安文学研究の新たな視座を拓くことをめざす。

(2) 活動記録

平成 18 年度は、以下の 3 回の共同研究会を開催し、基調報告・共同討議及び館蔵本の調査を行った。

① 6 月 23 日（金）

松岡智之「物語の文章を形作る方法をめぐって―一本居宣長『手枕』を起点に―」

萩野敦子「『狭衣物語』における「あやめ」場面の形成について」

② 8月25日（金）

岩城賢太郎「謡曲〈狭衣〉の構成—室町文芸における『狭衣物語』天稚御子 降下場面の受容の様相—」

横井孝「物語絵の「かたち」に「意味」はあるのか」

③ 10月27日（金）

小川陽子「『山路の露』の〈序〉について—語り手の位置付けを中心に—」

中村康夫「歴史語りのゆくえ」

また、館内教員のみで、以下の4回の勉強会を開催し、館蔵本の輪読などを行った。6月9日（金）、7月14日（金）、9月22日（金）、12月8日（金）

以上の活動に基づく研究成果は、『平成18年度研究成果報告 物語の生成と受容②』として刊行した。

【近世文芸の表現技法「見立て・やつし」の総合研究】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：武井協三、井田太郎、加藤定彦（立教大学教授）、佐藤恵里（高知女子大学教授）、新藤茂（国際浮世絵学会常任理事）、原道生（明治大学教授）、延広真治（帝京大学教授）、安原真琴（立教大学助手）、金子俊之（早稲田大学博士後期課程）

プロジェクト補助者：光延真哉（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

「見立て・やつし」について、文学・絵画・芸能の各ジャンルにおける作品に即して、各分野の着実な研究方法に基づいた注釈・解釈を加え、具体的な「見立」「やつし」の手法を考察・検討する。また、これらを通史的に考察することにより、各時代時代のそれぞれの変化などを追うことができる。各分野にわたって存在し、歴史的変遷を遂げた「見立」「やつし」という、日本独特の表現方法について、各分野における研究を共有することにより、その背景となっている日本の美意識をうかがい知ることができる。

(2) 活動記録

平成18年度は、今までの研究成果公開として、展示とシンポジウムを開催した。また、平成18年度も17年度と同様に、年3回の研究会を開催し、その成果を報告書にして刊行する。主な研究活動は以下のとおりである。

- ・ 5月6日（土） シンポジウム「表現としての「やつし」と「みたて」」打ち合わせ。出席者、加藤定彦、新藤茂、延広真治、武井協三、山下則子。
- ・ 5月10日（水）～6月1日（木） 展示「春季特別展「みたて」と「やつし」—浮世絵・歌舞伎・文芸—」。入場者数1,342名（1日平均79名）。
- ・ 5月17日（水） シンポジウム「表現としての「やつし」と「みたて」」。参加者数176名。内容「近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト」について、高橋（山下）則子。「浮世絵にみる見立」新藤茂。「戯作の見立」延広真治。「ヤツシの源流を探る」加藤定彦。パネルディスカッション・表現としての「やつし」と「みたて」。
- ・ 8月4日（金） 第1回共同研究会「元禄歌舞伎の「やつし」芸—「をかし」との結びつき」発表者：佐藤恵里。

- ・ 10月7日（土） 第2回共同研究会「近世の初期謎の本と見立て—『絵本餘所画鏡』を端緒に一」発表者：安原真琴。
- ・ 1月10日（水） 第3回共同研究会「初期歌舞伎の「見立て」」発表者：武井協三、
「近世後期見立役者絵の解釈（三）」発表者：高橋（山下）則子。

シンポジウムの内容と、共同研究会の内容は、共同研究会を基とした論文とあわせて、報告書3号に収録し発行した。

3 複合領域研究系

【総括】

複合領域研究系においては、学際的な研究領域の開拓を目指して文学作品群の多角的な研究を行うプロジェクトと、文化資源情報の電子化及び共有化に関する研究を行うプロジェクトを、それぞれ共同研究として実施している。前者は、調査収集事業部における文献資料調査・収集事業と連動した研究（6年計画の3年目）であり、後者は、総合研究大学院大学等において行ってきた研究を総合的に発展させた研究（3年計画の3年目）である。両プロジェクトとも、当初計画に従い研究はおおむね順調に実施された。

【文化情報資源の共有化システムに関する研究】

プロジェクト代表者：安永尚志

プロジェクト参加者：伊井春樹、大友一雄、武井協三、中村康夫、山下則子、伊藤鉄也、野本忠司、原正一郎（8月から京都大学地域研究総合情報センター教授）、相田満、五島敏芳、佐藤信子（当館機関研究員）、合庭惇（国際日本文化研究センター教授）、安達文夫（国立歴史民俗博物館教授）、石上英一（東京大学史料編纂所教授）、石川徹也（東京大学史料編纂所教授）、宇陀則彦（筑波大学大学院助教授）、及川昭文（総合研究大学院大学教授）、大山敬三（国立情報学研究所教授）、神門典子（国立情報学研究所教授）、久保正敏（国立民族学博物館教授）、小島道裕（国立歴史民俗博物館助教授）、柴山守（京都大学東南アジア研究所教授）、鈴木卓治（国立歴史民俗博物館助手）、関野樹（総合地球環境学研究所助教授）、鶴田啓（東京大学史料編纂所教授）、早川聞多（国際日本文化研究センター教授）、ボナベンチャー・ルベルティ（ヴェネツィア大学教授）、松村敦（筑波大学大学院助手）、村上祐子（国立情報学研究所助教授）、家辺勝文（日仏会館）、山田奨治（国際日本文化研究センター助教授）、山本泰則（国立民族学博物館助教授）、横山伊徳（東京大学史料編纂所教授）

プロジェクト補助者：大内英範（当館リサーチアシスタント）、大野順子（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

日本文学研究及び教育に資するコンテンツ整備、システム及びネットワークなど情報資源の整備を行い、資源共有化を実現する。そのための先導的、実用化研究を行う。

国文学研究資料館が30年に渡って蓄積してきた60余種の多様な研究情報資源の高次利活用をはからなければならない。従来、研究情報資源の組織化（データベース化）は、個々の目的に応じて、独立に形成、管理、利用を図ってきたため、個別散発的であり、形成、管理、利用の様々な側面において、システム、環境、情報、データ、作業、工程、経費等の重複が見られる。これらの無駄を省くことが不可欠なこととして、緊急の課題となっている。

今年度の研究活動は、個々の専門別研究班などによる専門的課題研究を進めた。全体の研究会は、定例的に3ヶ月に1度開催した。また、関連する様々な国内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加し、研究発表並びに報告を行い、評価を行った。

特に今年度はとりまとめの公開研究報告会を開催し、現在までの研究成果の発表、加えて研究発表を通じての多面的な評価を行った。

(2) 活動記録

① 資源共有化の研究

情報資源共有化研究では3段階の研究を行った。

第1段階は、研究基盤の準備であり、国文学研究資料館における各種形態の異なる情報資源の資源共有技術の確立を行った。

第2段階では、これを基に同種の研究機関の資源共有化の方策を検討し、成果を得た。例えば、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、東京大学史料編纂所、大阪市立大学との情報資源共有化の進展である。基盤技術として、メタデータ（DCMES：Dublin Core Metadata Element Set）と標準情報検索プロトコル（Z39.50）による各種データベースの横断利用システム環境の構築である。

具体的には、総合研究大学院大学共同研究プロジェクト「資源共有化」と密接な連携を強化し、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館とのデータベースの横断利用実証実験を推進した。さらに、東京大学史料編纂所、京都大学東南アジア研究所とのデータベース横断利用の接続実験も成功し、試験的に現在研究者に公開し、評価を進めている。例えば、初年度においては公開研究集会を開催し、研究発表、講演を通じて評価を得ると共に、大きな関心を集め、好評を得た。第2年次においても、国際コラボレーション環境に重点を置き、イタリアにおいて初めて、ICJS（日本文学国際共同研究）研究集会を開催し、注目を集め、一層のコラボレーションを進める基盤となった。すなわち、イタリアとの国際コラボレーション環境が確立した。

第3段階は、国際コラボレーション環境による海外の研究機関との情報資源共有化の整備である。一部、欧米の主要国との間で、研究拠点形成の準備が整いつつある。また、3ヶ年の研究成果のとりまとめと評価のため、年度末に一般公開による研究報告会を行った。講評の結果、本研究における研究成果は極めて実用の高いものであるとの確認が得られた。例えば、人間文化研究機構が進める研究資源共有化に最適な技術基盤を与えることなどから、成果の継承発展が強く期待される。

② 国際コラボレーション研究経緯と成果

基盤的情報資源の整備では、海外の研究拠点における研究者ディレクトリ、研究論文目録データベース、翻訳作品目録データベースなどを中心とする情報資源の高次活用が進んだ。ホームページの充実と共に、コンテンツの情報発信環境を継続するため京都大学地域研究統合情報センターにポータルサイトを開設した。

イタリア、フランスとの枠組が一層整った。特に、イタリアを中心に、昨年度までのデータベースにさらに研究者ディレクトリ、研究論文目録、翻訳作品目録を追加、改訂し、データベースを完成した。また、引き続きフランスにおける研究者ディレクトリ、研究論文目録、翻訳作品目録のデータ作成を完了した。

さらに韓国、台湾、インド関連のデータ収集が進み、蓄積を進めている。つづいて、アメリカ、中国などとの研究調整を進めた。

③ コンテンツ整備

日本文学コンテンツ形成も重点的に進めた。例えば、奈良絵本データベースの充実に努め、全文テキストの翻刻を行い、画像ページデータとの直接対比が可能なデータベースを構築し、

ホームページから運用を開始した。また、源氏物語を中心とする定評のある古筆切、連歌関係古筆切などを購入し、画像データベース化すると同時に、注釈、翻刻などのアノテーションを行う国際コラボレーション環境の構築を開始した。

④ 海外研究拠点の整備の研究経緯と成果

海外研究拠点の整備では、海外の多くの学協会との協力関係が進展したことが大きい。とりわけ、AISTUGIA（伊日研究学会）の協力は極めて大きく、会長の Adriana Boscaro 教授（ヴェネツィア大学）を始め多くの日本文学研究者の全面的な支援を得、ほぼ完了に近いコンテンツの蓄積を整えた。

また、SFEJ（仏日研究学会）も、会長の Cecile Sakai 教授（パリ第7大学）はじめ、コレージュ・ド・フランスなどの多くの研究機関から具体的支援を得、コンテンツ収集が進み、研究論文目録、翻訳作品目録データベースの構築と提供を開始している。

⑤ 国際日本文学研究集会研究報告書の公刊

平成 17 年 9 月、イタリア、フィレンツェ市において、I C J S（日本文学国際共同研究集会）を開催した。第 29 回イタリア日本研究学会会議との共催である。この正式なイタリア語による研究報告書を作成し、公刊した。

⑥ 研究会、研究発表会

研究会は定例的に 3 ヶ月に 1 度開催し、合計 4 回開催した。研究会は研究の進捗、管理する役割の他、研究分担者による役割分担者による個別研究課題の研究発表を重視した。毎回、数本の研究発表を行い、活発な討議を行い、研究を牽引し、また研究成果としてとりまとめた。今年度は 17 本の研究発表を行い、これらをとりまとめ重要な情報資源共有化に関わる研究成果を得た。

a. 第 1 回研究会（6 月 14 日（木） 13：00～15：00）

出席者：安永尚志、武井協三、中村康夫、原正一郎、野本忠司、伊藤鉄也、相田満、
五島敏芳、佐藤信子、柴山守、横山伊徳、及川昭文、山本泰則、大山敬三、
鶴田啓、宇陀則彦、鈴木卓治

場 所：大会議室 B

議 事：1 研究経緯

2 昨年度研究成果報告

3 今年度研究計画について

4 最終年度のとりまとめについて

研究発表：五島敏芳「アーカイブズの目録データの検索システム」

原正一郎「資源共有化システム～過去・現在・未来～」

b. 第 2 回研究会（9 月 13 日（水） 13：00～15：00）

出席者：安永尚志、原正一郎、伊藤鉄也、相田満、五島敏芳、佐藤信子、山本泰則、
関野樹、久保正敏、松村敦、合庭惇、安達文夫、宇陀則彦、山田奨治、
鈴木卓治

場 所：大会議室 B

議 事：1 報告書の作成について

2 資源共有化システムの試験公開の開始について

3 公開型研究会（例えば、シンポジウム）の開催について

研究発表：安永尚志「アーカイブズの目録データの検索システム」

久保正敏「時空間統合アーカイブズ構築の構想 ミクローマクロ往還、Cychronicle」

原正一郎「地理情報システム環境について 時空間ツール仕様作成資料 歴史地震データ時系列解析」

関野樹「T²Mapについて」

c. 第3回研究会(11月20日(月) 13:00～16:00)

出席者: 安永尚志、武井協三、野本忠司、伊藤鉄也、相田満、佐藤信子、原正一郎、及川昭文、山本泰則、大山敬三、関野樹、松村敦、安達文夫、鈴木卓治、古瀬蔵

場 所: 大会議室B

議 事: 1 報告書の作成について

研究発表: 村上祐子「機関リポジトリ」

安永尚志「研究資源共有化システム構成の概要」

安達文夫「歴博のDB項目とDCメタデータマッピング課題の整理」

山本泰則「Dublic Core へのマッピングの原則ー検討課題ー」

d. 公開共同研究報告会 ※第4回研究会(1月17日(水) 10:00～16:30)

出席者: 安永尚志、野本忠司、相田満、五島敏芳、佐藤信子、原正一郎、及川昭文、柴山守、山本泰則、大山敬三、関野樹、牟田昌平、石川徹也、鶴田啓、安達文夫、宇陀則彦、堀井英夫、細谷龍平、小嶋将士、鳥越直寿、村上祐子、鈴木卓治、古瀬蔵、大内瑞恵、佐山美佳、朝岡康二、藤沢桜子、佐藤かず子、植田尚美

他一般参加多数

場 所: 人間文化研究機構本部会議室

公開研究報告会:

第一部 資源共有化 司会: 及川昭文

安永尚志「文化情報資源の共有化システムに関する研究」

安達文夫「歴史研究データベースのDCメタデータへのマッピング」

山本泰則「民博における博物館資料情報共通メタデータ事始めーZ39.50 CIMI プロファイルー」

関野樹「時空間システム」

第二部 連携 司会: 大山敬三

柴山守「京都大学東南アジア研究所における資源共有化」

石川徹也「東京大学史料編纂所前近代日本史情報国際センターの研究課題」

牟田昌平「国立公文書館とアジア歴史資料センターにおける資源共有化事業について」

村上祐子「機関リポジトリ」

第三部 まとめ 司会: 安永尚志

原正一郎、宇陀則彦「講評」

【開化期戯作の社会史研究】

プロジェクト代表者: 谷川恵一

プロジェクト参加者: 山下則子、青田寿美、北村啓子、木戸雄一、青木稔弥(神戸松蔭女子学院大)

学教授)、奥野久美子(別府大学講師)、加藤禎行(山口県立大学講師)、
甘露純規(中央大学講師)、佐々木亨(徳島文理大学教授)、佐藤至子(相
山女学園大学助教授)、佐藤悟(実践女子大学教授)、須田千里(京都大学
大学院助教授)、高木元(千葉大学教授)、高橋昌彦(下関短期大学教授)、
土屋礼子(大阪市立大学大学院教授)、中丸宣明(山梨大学助教授)、
福井辰彦(京都大学 COE 研究員)、山田俊治(横浜市立大学教授)、
山本和明(相愛大学教授)、山本良(埼玉大学助教授)、
ロバート・キャンベル(東京大学大学院助教授)

プロジェクト補助者:大橋崇行(当館リサーチアシスタント)、佐山美香(当館リサーチアシス
タント)

(1) 概 要

幕末から明治期にかけての戯作文学の可能性を、転換期の社会史との相関の中から探る研究。
特に仮名垣魯文の著作活動の全体像を明らかにすることを通して、新たな文学史像の提出を目指す。

(2) 活動記録

月例研究会を5月～1月に各1日開催した。うち、7月に3日間、1月に2日間の日程で研究
大会を行った。大会プログラムは以下のとおり(打合せ等の文言は省略)。

① 7月15日(土)～17日(月)第五回研究大会

延広真治「伯田と魯文—横浜小僧殺し」 大橋崇行「浮世風呂端唄入混」 山本良「夢物
語高野実伝」 山本和明「新屋文庫蔵『春色柳桜筋』をめぐる」 佐藤至子「仮名読八犬
伝」 青木稔弥「滑稽道中膝車」 加藤禎行「西洋料理通」 木戸雄一「浮世機関西洋鑑」
青田寿美「両国八景 荏土久里戯」 奥野久美子「西國順禮 娘敵討」 佐々木亨「芬明開花
窮理外伝」 小林実「通俗 究理話」 福井辰彦「全盛玉菊譚」 谷川恵一「牛店雑談 安愚
楽鍋」

② 1月6日(土)～1月7日(日)第六回研究大会

青木稔弥「西洋道中膝栗毛(版下草稿)」 福井辰彦「報讐信田森」 木戸雄一
「誠忠義臣銘々伝」 高木元「當世八犬伝」 佐藤至子「梅春霞引始」 安部亜由美「当写
殿下茶屋駅」 松原真「仮名垣魯文『真薦苅信濃美談嘉助全伝』」 山本和明「魯文作『歌
舞菩薩露親王』に関する一考察」 小林実「横浜土産」 宮脇真理子「冬楓月夕栄」
青田寿美「於歳玉毬唄絵解」 加藤禎行「首書絵入／世界都路」 佐々木亨「蛸入道魚説教」
中丸宣明「安政見聞誌」 谷川恵一「横浜往来」

月例研究会については記載を略すが、各回1～2名の研究発表を行った。

4. アーカイブズ研究系

【総 括】

古文書から電子記録まで多様に存在するアーカイブズ資源に関する総合的研究を行い、わが国のアーカイブズの特質の解明及びその保存・活用のための技法・理論を確立することを目的として、さらにアーカイブズ情報を社会化するためのシステム構築の研究を推進することに重点を置き、次の三つの研究プロジェクトを展開している。

それは、①経営と文化に関するアーカイブズ研究、②東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究、③アーカイブズ情報の資源化とネットワーク研究である。①は史料館以来の伝統的な史料学研究を引き継いだもので、③は史料群情報の電子化と国内的国際的情報共有システムの研究であり、②は東アジアの比較史料学研究とアーカイブズ資源の共有化に関する研究であり、アーカイブズ学研究を基盤に三つのプロジェクトが相互に相補う関係に設定されている。

いずれも平成 16 年度～ 21 年度の 6 年計画の 3 年目であり、鋭意研究成果のとりまとめにあたっている。

共同研究の進展という立場から、大学・自治体等と連携して研究を進め、歴史学、情報学、美術史学などを専攻する大学教員等の調査・研究活動への参加を得ている。また、機関研究員・リサーチアシスタント等若手研究者を調査活動や研究会に参加させ、報告させるなど、その育成を積極的に図っている。

なお、『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』第 2 号を刊行し、研究成果を発表した。また、『アーカイブズニュースレター』第 3、4 号を発行し、研究プロジェクトの計画・研究成果を速報として公表した。

さらに①の研究中間報告書として『近世・近代の豪農経営と地域社会・文化』を刊行した。

【経営と文化に関するアーカイブズ研究】

プロジェクト代表者：高橋 実

プロジェクト参加者：青木睦、山田哲好、丑木幸男（当館名誉教授）、神谷智（愛知大学助教授）、田島達也（京都造形芸術大学講師）、伊達仁美（京都造形美術大学助教授）、藤實久美子（学習院大学非常勤講師）、永井博（茨城県立歴史館首席研究員）、浪川健治（筑波大学大学院教授）、門前博之（明治大学教授）、山崎圭（中央大学講師）、山本英二（信州大学助教授）、横山憲長（長野県立短期大学教授）

プロジェクト補助者：小松賢治（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

国文学研究資料館の原典資料に関する実証的研究を基礎とした日本文化の多様性を総合的にとらえ直す研究計画に関連し、館蔵史料のうち近世・近代の地主・名望家及び実業の経営と文化に関する史料を中核とし、現地に保存されている関連史料を対象に含めてアーカイブズ学的研究を進めている。それにより日本文化の多様性を総合的にとらえ直し、豊かでかつ新しい地域史像・実業史像を立体的に明示するとともにアーカイブズ学研究的深化を目的としている。

(2) 活動記録

本研究は①～③の 3 つの柱を立てて進めてきた。

① 信濃国高井郡東江部村・山田家文書を中心とする調査・研究

今年度は山田家文書の共同調査を3回行い、それに併せて小研究会を現地で開催した。また中間研究報告のとりまとめに向けて共同研究会を開催した。それによって新しい豪農像、地域社会像あるいは地域文化の有り様などが浮かび上がってきた。

館蔵の『史料目録 第85集』（信濃国東江部村山田庄左衛門家文書・その4最終）を刊行するとともに、中野市の山田家文書の史料目録を3冊刊行予定で、その第2冊目を刊行した。

② 常陸国行方郡玉造村・大場家文書を中心とする調査・研究

館蔵常陸国須田家文書と同じ水戸藩南領の大山守を務めた大場家文書を対象として、総合的調査を実施した。水戸藩の中間支配機構の特質の分析を進めている。さらに未調査の絵画、書跡、典籍について美術史研究者との共同調査を終え、地域文化史研究を進めている。

③ 日本実業史博物館資料の調査・研究

館蔵「日本実業史博物館」準備室旧蔵資料の画像を含めたデータベース化、デジタル画像化等を推進するとともに、日本実業史博物館構想の全体像の解明、同博物館コレクションの形成に関する研究、資料群保存管理論研究などを進めた。実博資料調査・研究の進展に合わせて「日本実業史博物館全資料のデータベース構築」「日本実業史博物館の形成過程とその諸相」をテーマとする合同公開研究会を開催した。

【東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究】

プロジェクト代表者：安藤正人

プロジェクト参加者：渡辺浩一、加藤聖文、林雄介（当館客員助教授・明星大学助教授）金慶南（外国人研究員・韓国国家記録院学術研究士）、李炅龍（外来研究員・韓国国家記録院学芸研究士）浅井紀（東海大学教授）、臼井佐知子（東京外国語大学教授）、岡崎敦（九州大学大学院助教授）、蔵持重裕（立教大学教授）、栗原純（東京女子大学教授）、須川英徳（横浜国立大学教授）、高橋一樹（国立歴史民俗博物館助教授）、辻弘範（学習院大学東洋文化研究所助手）、林佳世子（東京外国語大学教授）、松田利彦（国際日本文化研究センター助教授）、三浦徹（お茶の水女子大学教授）、田美姫（韓国国史編纂委員会）[研究協力者]、文叔子（韓国国史編纂委員会）[研究協力者]、王振忠（復旦大学歴史地理研究所教授）[研究協力者]、バネッサ・ハーディング（ロンドン大学バーベック校歴史古典考古学科リーダー）[研究協力者]、エルキン・ジャン（アンカラ大学準助教授）[研究協力者]

プロジェクト補助者：竹内桂（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

日本を含む東アジア地域を中心とする近代アーカイブズ資源を対象とした調査・研究。政府や地方自治体等の組織体における文書管理・伝来過程について、国内外研究者の協力を得て国際的比較研究を進めている。

(2) 活動記録

① 調査の実施と研究会の開催

研究は「多国間比較」班と「植民地関係史料」班に分かれて実施しているが、調査は「植民地関係史料」班を中心に、科学研究費補助金による研究「朝鮮総督府文書を中心とした旧植民地史料の共用化に関するアーカイブズ学的研究」と共同で、韓国並びに国内において朝鮮植民

地支配関係史料の調査を進めた。また朝鮮総督府関係者の聞き取り調査も行っている。研究会は主に国文学研究資料館を会場として国内研究会を開催したほか、国際研究会としては、9月にトルコのアンカラ大学で開催された国際シンポジウム「オスマン朝と中近世日本における国家文書と社会動態」に参加した。

② 概 評

予算上の制約から科研費による研究成果を活用しつつ研究を進めている現状であるが、調査や研究会はいずれも実りあるものとなっており、共同研究の成果があがっている。

【アーカイブズ情報の資源化とネットワーク研究】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：安永尚志、原正一郎（8月から京都大学地域研究総合情報センター教授）、五島敏芳、前川佳遠理、戸森麻衣子（当館機関研究員）、青山英幸（駿河台大学大学院非常勤講師）、安倍尚紀（総合研究大学院大学葉山高等研究センター上級研究員）、藤吉圭二（高野山大学助教授）、丸島和洋（慶応義塾大学非常勤講師）、宮崎克則（九州大学総合研究博物館教授）、村越一哲（駿河台大学教授）、森本祥子（国立国語研究所研究員）

プロジェクト補助者：坂口貴弘（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

アーカイブズ情報の資源化と、その情報提供環境とは如何にあるべきか、国際動向を踏まえ、実験的な取り組みを通じて提案する。具体的には①記録史料群の構造化に関する研究、②EAD規格による情報の組織化のための研究、③情報提供とネットワークシステムに関する研究とし、最終的には、④これらをアーカイブズ全体の電算システムとの関わりで位置づけることを試みる。

(2) 活動記録

① 記録史料群の構造化に関する研究

昨年度に引き続き、収蔵史料のうち信濃国高井郡東江部村山田家文書、鳥取・岡山・広島県諸村役場文書の分析を進め、また新規に尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書、伊豆国田方郡菰山江川家文書の4文書群を対象にその組織構造に関する研究を進め、研究成果の一部は研究会でこれを発表した。また、研究成果を踏まえデータベース化の準備を進めた。さらに鳥取・岡山・広島県諸村役場文書、尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書については、組織構造に関する研究成果を生かして史料目録を刊行した。また、データベースの公開を準備した。

② EAD規格による情報の組織化のための研究

収蔵記録史料の情報を広く共有し利活用できるよう、その資源化・組織化・公開に関する研究を進めた。特に日本の史料目録（検索手段）を、電子的検索手段のデファクト国際規格EAD（Encoded Archival Description）（符号化記録史料記述）とXMLによって電子化する方法を研究した。

関連して平成19年7月22日（土）公開の研究集会を科学研究費補助金「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究」（代表高埜利彦）と共催し、アーカイブズの資源化、公開方法について成果の一端を公表した。報告は青山英幸「アーカイブズ・マネージメントからアーカイブズ・レコード・マネージメントへ」、五島敏芳「日本におけるアーカイブズ総合目録のための提案：EAD-XML検索システムと新「史料

情報共有化データベース」の紹介。また、2月28日（水）にも研究会を開催し、青山英幸「アーカイブズ・レコード・マネジメントにおけるアーカバルコントロール」、坂口貴弘「アーカイブズ情報のメタデータ標準をめぐる動向」の報告を得た。さらにこれらの取り組みにかかわり、EADに関するワークショップを開催した。また、EADに関する外国文献の翻訳を開始した。

③ 情報提供とネットワークシステムに関する研究

これまで日本全国の諸機関の協力を得て収集してきた情報を集約し、その分析に努めた。

5. 公募共同研究

【江戸時代中期文人大名に見る学芸と思想に関する総合的研究

－佐賀鹿島藩第六代藩主鍋島直郷の事跡を中心に－

研究代表者：井上敏幸（佐賀大学教授）

研究参加者：鈴木淳、小川剛生、山田哲好、入口敦志、大庭卓也（福岡教育大学非常勤講師）、川平敏文（熊本県立大学助教授）、久保田啓一（広島大学教授）、小宮木代良（東京大学史料編纂所助教授）、進藤康子（九州情報大学非常勤講師）、野口朋隆（小城市立歴史資料館・中林悟竹記念館学芸員）、宮崎修多（成城大学教授）

(1) 概要

佐賀鹿島藩第6代藩主鍋島直郷（1718～1770）の遺稿や旧蔵書が、祐徳稲荷神社博物館の中川文庫に多く残されていることは周知のとおりである。その中に直郷の学芸の師であった人々の遺稿集や旧蔵書が豊富にある。和歌における鴛河申也の遺稿群、漢詩文における川口子深の遺稿群、さらに神道の伝書類が多いことが特に注目される。江戸時代中期、享保末から宝暦期（1735～1763）にかけての江戸における学芸及び思想に関する研究は、極めて手薄である。今回の共同研究は、そうした中期の江戸における学芸と思想の実態を解明すべく鍋島直郷の遺稿群及び藩政史料、特に『鹿島藩日記』を中心とした藩政についての研究を中心に実施するものである。

(2) 活動記録

5月24日に東京で研究会を開き、過去2年間の研究成果の報告をし、成果を共同研究員相互に共有した。また、本年度の活動について確認し、6月の講演会の講演者等を決定。更に、報告書についても、翻刻収載する作品名を含めて、具体的な構成とそれぞれの担当者を決定した。

6月18日に祐徳稲荷神社にて成果発表の講演会を開催し、井上・大庭・野口の3人が講演した。また、その日程の前後には祐徳稲荷神社での現地調査と資料収集、また、今後の研究等についての会合を行った。

8月8日から10日の3日間、通常の調査収集事業部による祐徳稲荷神社中川文庫の関連調査として、福岡市博物館に所蔵される鹿島鍋島文庫の現地調査を行い、当共同研究に裨益する資料を中心に書誌調査を進め、また、資料現物を使用して共同討議を行った。

11月24日から26日には、調査収集事業部の通常の祐徳稲荷神社での調査を行い、その折に共同研究会のメンバーが現地で研究会を開催し、平成19年度の方針について決定した。平成19年2月には、共同研究員の一部人員が、京都大学に所蔵される関連資料と祐徳稲荷神社の資料の調査を行った。

【川瀬一馬氏旧蔵古典籍写真資料の調査と研究】 ※校正中

研究代表者：岡崎久司（早稲田大学国際日本学研究所客員教授）

研究分担者：小川剛生、落合博志、井田太郎、久保木秀夫、岡雅彦（当館名誉教授）、小秋元段（法政大学助教授）、佐藤道生（慶應大学教授）、高田信敬（鶴見大学教授）、堀川貴司（鶴見大学教授）、間島由美子（国立国会図書館主題情報部古典籍課主査）、村木敬子（大東急記念文庫学芸員）、和田恭幸（龍谷大学助教授）

(1) 概要

書誌学者川瀬一馬氏が研究の資料として収集された総計1万枚以上に上る古典籍の写真を対象

に、1枚1枚について書名・書誌分類・所蔵者・川瀬氏の著書における言及等を確認した上で、資料的性格と価値を検討する。特に戦災等により原本が現存しないものについては、図版集として刊行することを視野に入れて、詳細な研究・解題を行う。

(2) 活動記録

初年度に当たるため、研究の準備として、館内の研究分担者及びアルバイトによる写真の電子カード（写真1点ごとに番号を付け、画像を取り込んだもの）の作成を優先させた。現在約8,300枚まで終了している。残りは来年度7月頃までに終了の見込みである。

平成19年1月30日（火）に第1回の研究会を開催、館外7名・館内4名の計11名が参加し、本共同研究の全体的計画の説明、研究対象である川瀬氏旧蔵写真資料の概要説明、及び今後の作業手順の打ち合わせ等を行うとともに、カードの項目と記入法、カードの作成方法について意見を交換した。

6. 招聘外国人研究員共同研究

【井原西鶴と中世文学】

研究代表者：ダニエル・ストリューブ

(外国人研究員(客員助教授)・パリ第七大学助教授)

プロジェクト参加者：入口敦志、落合博志、齋藤真麻理、鈴木淳、武井協三、田渕句美子、
山下則子、篠原進(青山学院大学教授)、杉本好伸(安田女子大学教授)、
染谷智幸(茨城キリスト教大学教授)、中嶋隆(早稲田大学教授)、
畑中千晶(敬愛大学専任講師)、広嶋進(ノートルダム清心女子大学教授)、
藤川雅恵(青山学院大学文学部非常勤講師)

(1) 概要

近世初期の文化や文学は多くを中世から引き継いでおり、俳諧・浄瑠璃・仮名草子などの起源は中世に求めることができる。井原西鶴は伝統的な京都文化に通じ古典に親しんだ作家であったと言われている。彼は出版という新しいメディアと結びつつも、前代の文学をいわゆる「古典」としてではなく、生きている伝統として受け取り、その創作活動に取り入れた。本研究は西鶴のそうした伝統継承の側面に注目し、彼がどのように中世文学を受け継いだかを明らかにすることによって、西鶴文学の本質に迫ろうとするものである。

(2) 活動記録

共同研究「井原西鶴と中世文学」は、館外からも西鶴研究者の参加を求め、計3回開催された。第2回目の研究会は西鶴研究の全国組織である西鶴研究会の共催を受け、第3回目の研究会は西鶴研究会の主催で国文学研究資料館が共催したものである。青山学院大学で開催された3回目の研究会は、全国から西鶴研究者を糾合する機会となり、特に充実したものになった。研究成果報告「井原西鶴と中世文学」(101頁)を3月末に刊行した。

① 第1回共同研究会 5月28日(日) 13時～17時 於 国文学研究資料館

・「西鶴作品の仏語訳再考」 畑中千晶

・「『好色一代女』と『徒然草』の関わりについて(I)」 ダニエル・ストリューブ

参加者：

ダニエル・ストリューブ・篠原進・杉本好伸・中嶋隆・畑中千晶・広嶋進・藤川雅恵・
武井協三・大高洋司・鈴木博子(日本学術振興会特別研究員)

② 第2回共同研究会 8月23日(水) 13時半～18時 於 国文学研究資料館

主催・国文学研究資料館 共催・西鶴研究会

・「西鶴における『徒然草』享受の一端」 杉本好伸

・「西鶴作品と『徒然草』注釈書」 広嶋進

・「西鶴文芸における〈廻国〉〈隠棲〉」 中嶋隆

参加者：

ダニエル・ストリューブ・篠原進・杉本好伸・中嶋隆・広嶋進・藤川雅恵・入口敦志・
齋藤真麻理・鈴木淳・武井協三・田渕句美子・山下則子・大高洋司・鈴木博子(日本学術
振興会特別研究員)

③ 第3回共同研究会 8月24日(木) 一時～六時 於 青山学院大学

主催・西鶴研究会 共催・国文学研究資料館

- ・「『好色一代女』と『徒然草』の関わりについて（Ⅱ）」　ダニエル・ストリューブ
- ・「西鶴作品における〈我〉の効用について」　藤川雅恵

＊他に西鶴研究会会員による研究発表、書評が行われた。

参加者：

ダニエル・ストリューブ・篠原進・杉本好伸・染谷智幸・中嶋隆・広嶋進・藤川雅恵・
武井協三・石塚治（筑波大学）・有働裕（愛知教育大学）・大木京子（都留文科大学
（非））・大久保順子（福岡女子大学）・大高洋司・佐伯孝弘（清泉女子大学）佐伯友紀子
（広島大学（院））・鈴木千恵子（都立第四商業高校）・鈴木博子（日本学術振興会特別研
究員）・早川由美（愛知淑徳大学）・橋本智子（区立後池小学校）・水谷隆之（日本学術
振興会特別研究員）・宮澤照恵（北星学園大学）・森田雅也（関西学院大学）



情報事業センター

1. 調査収集事業部

【総括】

調査収集事業部では、本年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関（109ヶ所）に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集の2点である。これらについて、ほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。また、本年度初めての試みとしてデジタル撮影した古典籍資料（約650点）を、所蔵機関の許可を得てインターネット公開した。

さらに、調査収集の成果を共有し、更に広く社会に還元するため、調査収集の成果を基盤とする共同研究である基幹研究「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」を本年度から開始した。また、昨年に引き続き調査研究シンポジウム（第2回）を行った。

なお、昨年度に引き続き本年度も「リプリント日本近代文学」第2期40点、第3期40点を刊行した。特に第3期では、山梨大学附属図書館近代文学文庫所蔵の近代文献11点を加えた。

【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

(1) 日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成18年度においては、約11,000点の調査、約4,500点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（計103ヶ所）のほか、近代文献を対象とする特定領域調査・収集及び先方機関と連携して行う連携調査（計6カ所）を行い、本年度新たに連携調査2ヶ所（山梨大学近代文学文庫・熊本大学永青文庫）を加えた。なお連携調査の研究成果として、「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」（「忍頂寺文庫・小野文庫の研究」共同研究グループ・国文学研究資料館編）を刊行した。

(2) 日本古典籍資料調査データベース

本年度入力した、画像データ約9,000件、書誌データ約10,000件で、既存の紙調査カードのデジタル化を完了し、計約130,000件が利用に供される運びとなった。

約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

(3) 調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』27号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」を刊行した。（来年度は、第4期50点、第5期40点を刊行の予定である。）

(4) 調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果はこれまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、今後それを更に推進するための取り組みとして、本年度から当館の基幹研究として「文学資源の複

合研究」という研究テーマのもとに「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」の共同研究を開始した。それぞれ調査員が共同研究者として加わり、5年間の共同研究を行うものである。また、この共同研究を開始するに当たり、調査研究シンポジウム（第2回）において、小秋元段氏と鈴木俊幸氏による、基幹研究に向けての基調報告を行った。この内容は『調査研究報告』27号に掲載されている。

【アーカイブズ調査・収集】

(1) 目録による史料群所在情報の調査

全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類136冊を収集した。

(2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、原本テキスト化及び保存と利用のための基盤整備として、尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書（その3）・信濃国高井郡東江部村山田家文書（その4）を収録した『史料目録』第83集・第84集、『史料叢書』第9巻（「近世の裁判記録」、名著出版）を刊行した。

(3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

信濃国松代真田家文書に関連して真田宝物館の調査を行い、これまでの手書き目録を電子化してデータベースを作成し、宝物館と当館との効率的調査基盤を整備した。

『史料目録』及び『史料叢書』第10巻（「文書管理の記録史料」）に関連して、長野県松代市（松代藩領地域）・長野県歴史館・島根県立図書館・元松江藩家老三谷家の調査を実施した。

(4) 現物史料の受け入れ

史料4件（台湾神社史、（京城効率女子高等普通学校）和寿礼奈久佐、（満州帝国大同学院）卒業記念写真帖第1部第11期、台湾産業開発関係資料11点）を購入した。

2. 電子情報事業部

【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用を図り、研究及び事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関などとの連携を進め、情報資源共有化事業を進めている。

情報システム環境は、第7期情報システム計画（平成17－21年度）の第2年度に当たり、昨年度後半（平成18年2月1日）に第6期情報システムからリプレイス後、現在順調に稼働している。

一年を通じて24時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

現在21本のデータベースの公開を滞りなく行っている。データ追加、更新などは時機を見つづ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。また、今年度新たに4本のデータベースの構築を進め、次年度から公開の体制を整えた。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、情報システムチームと事業課（現 学術情報課、以下同じ）が当たっている。

一昨年度開発したデータベースサービスシステムの運用管理を行った。共同利用者の便宜の向上と高信頼度の情報提供のために、データベースサービス窓口体制を整え、さらにより高度なレファレンス業務を行っている。加えて、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

複合領域研究系が進める資源共有化プロジェクトと連携し、現在独立しているデータベースの一元化の共有化を事業として検討、準備した。実験環境の整備、情報資源のメタデータ作成、国際標準情報検索システムの導入と調整、実証実験と評価を継続した。機構本部が進める研究資源共有化事業に積極的に協力し、関連してシステム環境の整備を行った。また、データベースの現状調査や知的財産権関連調査にも協力し、これらの活動を通じて多くの研究機関との連携あるいは接続を成功させ実用化の準備を整えた。

なお、年度途中で、機構本部による共有化を目的としたデータベースの調整費の申請依頼があった。新規データベースを含む9件のデータベース調整費を要求し、全件採択となり、年度末完成を目指して調整作業を行い、大量のデータの追加、更新等を行った。

電子情報事業部における事業の総合評価を以下にまとめる。

年度計画に準じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。今年度も、情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能拡充、共有化整備を進め、発展性に寄与した。借用端末の入れ替えを滞りなく実施した。情報資源のホームページからの公開は、利用者、アクセス数等の増大、並びに各種意見や要望への対応により、高い社会性と公開性を達成した。

【電子情報事業部の運営】

(1) 組織体制と運営

部長（安永尚志教授）を置き、副部長（原正一郎助教授）他、2チーム（情報システム、データベース）により組織された。情報システムチームは、データベースサービスの運用管理を一体

化して、作業の効率化と共に窓口業務等の運営に情報システムをうまく取組む効果が得られた。

各チームにはチームリーダーを置き、12名の教員を分担配置し、チーム事業の実行責任を担った。各チームは事業課長の指揮の下、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

借用端末入れ替えのための仕様策定委員会等を開催し、導入を決定した。

各月1回、定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、電子情報事業に関わる多種の事項について審議、立案等を行った。より専門的な事項については、専門作業部会を設け、審議した。

(2) 情報システムの運用管理

情報システムは、UNIXサーバ（SUN Fire 440 2台、V 240 8台、V 210 4台、2.7TBHD等）による分散型システムと館内LAN（基幹系1GB、支線系100MB）に接続されたクライアントPCとで構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による館外データベースサービス等に用いられている。

平成18年2月1日から、第7期情報システムが本格的に稼働を開始した。管理運用体制として、情報システムチームが当たり、実務、事務処理は事業課システム管理係並びに学術情報係が担った。なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、副部長、システム管理係の指示により、外注SEに分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークから構成されるが、それぞれについて、ほぼ365日24時間不断の安定稼働を実現している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（CPU稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースサービスを提供した。

また、本年度は事務系、研究系クライアントPC（88台）及びプリンター（26台）の入れ替えを行い、本年2月1日から運用を開始した。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各PCデータの自動バックアップ等の仕組みを取り入れた。

(3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス進入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

第7期システムでは、特にセキュリティ対策に万全を期すため、厳重な接続機器の管理を個々に行った。

(4) 情報資源の運用管理

公開されている21個のデータベースの年間を通じて切れ目のない24時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

また、年度内に機構本部によるデータベース調整費（データベース9本）によるデータの追加・更新作業を行い、大幅なデータを追加した。次年度から公開予定である。

① マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録

既存のマイクロ資料・和古書目録データベースを再構築し、館蔵マイクロ資料目録データと日本古典資料調査データ及び収集デジタル画像とのリンクを作成。

② 欧州所在日本古書総合目録（高次化版）

データ追加、更新。また、日本古典籍総合目録の著作典拠データ及びケンブリッジ大学蔵書のデジタル画像とのリンクを作成。

③ 江川文庫所蔵資料画像データベース

今年度公開した伊豆韭山江川家文書データベースの画像部分を構成。

④ 近代文献情報データベース

館蔵の近代文献を対象として、データ追加、更新。

⑤ 和刻本漢籍総合データベース

新規。和刻本漢籍分類データベースに序跋刊記の書誌情報・デジタル画像を付加。

⑥ 連歌・演能・雅楽データベース

新規。休止中の連歌データベース・演能データベースを再構築し、雅楽の実演記録データを追加。

⑦ 収蔵アーカイブズ情報データベース

データ追加、更新。

⑧ 古典学統合百科データベース

新規。「伝記解題」「地下家伝・芳賀人名辞典」の2種。

⑨ 館蔵神社・寺院明細帳データベース

新規。社寺名・宗派名・所在地名等のデータ及び目次のデジタル画像。

(5) 情報サービスの向上

従来、データベースシステムの利用実態は単純な利用状況に限定されており、利用者の利用実態分析は進んでいなかった。そのため、問合せ窓口を設置し利用データの収集を図った。

一方、データベース利用統計は、Web環境のサーバシステムでのWebページのアクセス記録等の分析を進めた。

(6) 人間文化研究機構本部との連携

人間文化研究機構本部の「研究資源共有化事業」の一環として、機構内の他機関とのデータベースのフォーマットの統合が図られ、共有化システムの導入が行われた。本事業部は、館内データベース担当者と機構担当者との調整、技術的なコンサルテーション等、様々な形で協力した。

【個別事業の実績、評価】

(1) 情報システムの運用管理

情報システムと情報資源のセキュリティ確保と安定的運用管理を行うため、以下のように業務を行った。

① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、情報システムチームリーダー指揮の下、事業課システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注SEにより行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、およびネットワーク障害、さらに外部からの干渉（ハッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（障害によるメールサーバの停止は2回ほどあったが、即座に対応した。また、ディスク保守のための停止が1回あっ

た。)

しかしながら、近年どの環境に置いても同様であるが、膨大なスパムメールの受信が続き、研究、教育、事業の運営に支障を来し、対策を迫られている。特効薬がないのが現状であるが、一応、スパムフィルターの導入を検討している。

一方、PC系、プリンタ系の障害等については、事業課システム管理係および業者の保守窓口による対応を図った。また、新規PC端末導入時には、説明会を2回開催し、操作要領の周知を図った。

② 共同利用の推進

共同利用等の内容、水準に関する目標を達成するための措置として、資源共有化システムの管理運用を行った。また、人間文化研究機構に属する機関のうち、当館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、国際日本文化研究センターとの安定的なシステム接続運用を行った。

一方、人間文化研究機構「研究資源共有化事業」にも、積極的にに関わり、その責務を果たしている。さらに、複合領域研究系での共同研究「文化情報資源の共有化システムに関する研究」への協力も積極的に行った。

(2) データベースサービスの向上

一昨年度開発したデータベースサービスシステムに基づき、データベースサービスのための総合窓口業務を行った（業務統計は付表2参照）。

なお、レファレンスに関する業務も組み入れてシステム化されている。

(3) 各データベースの管理運用

① データベース全般的な稼働実績

データベースと関連システムの保存と運用管理について、今年度管理対象としたデータベースは以下のとおりである。主な管理内容を以下にまとめる。

当館ホームページ「電子資料館」で下記のデータベースを公開している（付表1参照）。

○図書・雑誌所蔵目録（OPAC）

○マイクロ資料・和古書目録データベース

○国文学論文目録データベース

○日本古典籍総合目録*（これまで公開していた国書基本データベース（著作編）と古典籍総合目録データベースを統合・拡張したデータベース）

○日本古典資料調査データベース

○近代文献情報データベース（近代書誌・近代画像データベース、明治期出版広告データベース）

○コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録

○古筆切所収情報データベース

○収蔵アーカイブズ情報データベース

○「史料所在情報・検索」システム

○史料情報共有化データベース

○伊豆菰山江川家文書データベース*

○日本古典文学本文データベース

○二十一集データベース

○吾妻鏡データベース

○絵入り源氏物語データベース

- 古事類苑データベース*
- 歴史人物画像データベース
- 新奈良絵本画像データベース
- 実業史絵画データベース*
- 館蔵和古書画像データベース*

＜注＞*印を付した4つのデータベースは、今年度公開を開始。

② 個々のデータベース運用管理

各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。特に、知的財産権に関わる権利関係を明確に整理した。

一方、人間文化研究機構本部の要求に基づき、データベース台帳の作成に協力し、公開中データベースについてデータを提供した。さらに、機構本部が進める研究資源共有化事業においても、公開中の資源共有化用データベースの情報提供を行った。

下記に、各データベース班による運用実績をまとめる（データベース利用統計は付表2参照）。

a. 文献情報データベース班による運営

文献情報データベース班は、日本文学に関わる典籍、文書等の目録、所在、書誌、本文、画像等の文献情報に関するデータベースを分掌とする。下記データベースと関連システムの保存と保守、管理運用を行った。研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

ア) 図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)

イ) マイクロ資料・和古書目録データベース

ウ) 日本古典籍総合目録

エ) 日本古典資料調査データベース

オ) 近代文献情報データベース (近代書誌・近代画像データベース、明治期出版広告データベース)

カ) 古筆切所収情報データベース

キ) 日本古典文学本文データベース

ク) 二十一代集データベース

ケ) 吾妻鏡データベース

コ) 絵入り源氏物語データベース

サ) 古事類苑データベース

シ) 歴史人物画像データベース

ス) 新奈良絵本画像データベース

セ) 館蔵和古書画像データベース

b. 研究情報データベース班による運営

研究情報データベース班は、日本文学に関わる論文目録、研究者ディレクトリ、研究用語、作者・作品・人物等研究情報に関するデータベースを分掌する。下記データベースと関連システムの保存と保守、管理運用を行った。研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

日本文学に関する研究情報を網羅した平成16年版の国文学年鑑の刊行を行った。また、平成17年版の原稿作成、編集作業を行った。

・『国文学年鑑』平成 16 年版統計

発行日 平成 18 年 9 月 10 日

発行所 株式会社 至文堂

総頁数 987 頁

販売価格 14,000 円

発行部数 複製部数 750 部

内訳

雑誌・紀要・論文集所載論文件数	12,528 件
特集号一覧件数	301 件
学会一覧件数	45 件
学会研究発表一覧件数	803 件
新指定文化財数	13 件
文部科学省科学研究費補助金等交付数	647 件
受賞一覧件数	94 件
訃報件数	28 件
単行本一覧件数	3,232 件
収載雑誌紀要一覧件数	1,488 件
発行所一覧件数	1,079 件
翻刻複製作品数	920 件
執筆者数	10,081 件

ア) 国文学論文目録データベース

イ) コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録

c. 史料データベース班による運営

史料情報データベース班は、記録史料の所在・分類・性質等、史料情報に関するデータベースの作成支援、管理運用等を行う。下記データベースと関連システムの保存と保守、管理運用を行った。研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

ア) 収蔵アーカイブズ情報データベース

イ) 「史料所在情報・検索」システム

ウ) 史料情報共有化データベース

エ) 伊豆菰山江川家文書データベース

オ) 実業史絵画データベース

(4) 新規データベースの準備

人間文化研究資源の共有化推進事業において準備中であった下記 4 本のデータベースについて、次年度からの公開のための準備を行った。

- ① 和刻本漢籍総合データベース
- ② 連歌・演能・雅楽データベース
- ③ 館蔵神社・寺院明細帳データベース
- ④ 古典学統合百科データベース

付表1 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

目 録	図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約 85,000 件、雑誌約 5,200 タイトル。
	マイクロ資料・和古書目録データベース	当館所蔵のマイクロ試料 (当館がマイクロフィルムに撮影、収集した国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等) と和古書 (写本・版本等) の目録データベース。マイクロ資料約 199,000 件、和古書約 12,000 件。
	国文学論文目録データベース	国文学関係論文 (大正元年～平成 17 年) の目録データベース。約 438,000 件。
	日本古典籍総合目録	日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録データベース。『国書誌目録』所載の所在・翻刻複製についての情報 (写本、版本、活字・複製・謄写本) を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ資料 (国内外の古典籍を撮影収集した資料) も含む。著作約 453,000 件、著者約 67,000 件、書誌約 426,000 件。
	日本古典資料調査データベース	当館が 30 年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文獻資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像データベースも参照可能)。約 133,000 件。
	近代文獻情報データベース	「近代書誌・近代画像データベース」及び「明治期出版広告データベース」 (平成 10 年度から開始した、明治期以降の国文学を中心とした文獻資料の調査・収集の成果を公開)。書誌約 11,000 件、画像約 400 件、出版広告約 8,100 件。
	コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。約 8,000 件。
	古筆切所収情報データベース	「古筆切提要」以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約 11,000 件。
	収蔵アーカイブズ情報データベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要データベース及び資料目録データベース
	『史料所在情報・検索』システム (試験公開)	国内各地に伝来する史料群の所在・概要情報データベース (詳細版は利用登録制)
	史料情報共有化データベース	国内外で公開されている史料群 (アーカイブズ) 情報のデータベース (史料を公開する各収蔵機関による共同構築)
	伊豆並山江川家文書データベース	このデータベースは、財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫の協業により公開するもの。
	日本古典文学本文データベース (試験公開)	『日本古典文学大系』 (旧版、岩波書店刊) の全作品 (100 巻 560 作品) の本文 (テキスト) データベース (利用登録制)
	二十一代集データベース	原本テキストデータベース (当館所蔵の正保版本を底本とし、詞書・作者・和歌・左注・メモ等からの検索が可能)
	吾妻鏡データベース	原本テキストデータベース (当館所蔵の寛永 3 年版本を底本とし、ブラウザ機能による全文検索が可能)
	絵入り源氏物語データベース	原本テキストデータベース (当館所蔵の承応 3 年版本を底本とし、ブラウザ機能による全文検索が可能)
	古事類苑データベース	「古事類苑」全文を電子テキスト化し、オントロジデータベースとして発展を構想するもの。現在、「天部」のみ。
	歴史人物画像データベース	古代から近世までの歴史上の人物約 650 名の画像データベース (当館所蔵の和古書から採録)
画 像	新奈良絵本画像データベース	当館所蔵の奈良絵本 (11 本) の原本画像データベース (翻刻付)
	実業史絵画データベース	日本実業史博物館設立準備室旧蔵絵画データベース
	館蔵和古書画像データベース (試行版)	当館所蔵の和古書 (写本・版本等) の画像データベースの簡易目録と連携し、和古書約 5,600 件の検索と画像閲覧が可能。

(平成 19 年 3 月末現在)

付表2 平成18年度 データベース利用統計 付：データベースサービスシステム総合窓口業務統計

(1) 図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	14,478	18,260	20,076	19,182	22,299	17,834	19,505	23,428	21,459	10,979	6,123	6,655	200,278

(2) マイクロ資料・和古書目録データベース

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	76,668	95,010	108,312	124,662	102,144	100,404	92,310	88,884	113,340	48,660	41,766	37,644	1,029,804

(3) 国文学論文目録データベース

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	63,576	86,480	98,377	94,805	55,391	64,347	96,432	96,784	98,306	70,698	45,605	37,673	908,474

(4) 国書基本データベース (著作編)、12 月 27 日で停止

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	22,767	21,423	22,250	24,150	18,191	23,574	29,538	24,982	20,902	—	—	—	207,777

(5) 古典籍総合目録データベース、12 月 27 日で停止

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	8,423	14,081	11,434	9,081	8,687	13,943	16,165	12,455	10,087	—	—	—	104,356

(6) 日本古典籍総合目録、12 月 27 日から公開

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	—	—	—	—	—	—	—	—	1,780	32,565	31,181	36,496	102,022

(7) 日本古典資料調査データベース

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	2,301	2,730	2,867	3,818	2,210	2,023	1,947	2,043	1,902	2,408	4,953	3,737	32,939

(8-1) 近代文献情報データベース (近代書誌・近代画像データベース)

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	8	49	8	58	0	0	96	522	939	1,042	169	777	3,668

(8-2) 近代分遣情報データベース (明治期出版広告データベース)

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
ページ閲覧数	250	256	286	210	289	144	264	214	236	224	281		2,609

(9) コーニッキー版 欧州所在日本古書総合目録

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	142	166	189	159	196	130	471	101	216	174	192	179	2,315

(10) 古筆切所収情報データベース

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	120	236	239	218	237	234	257	150	233	201	233	351	2,709

(11) 所蔵アーカイブズ情報データベース

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
利用回数	3,451	4,504	3,293	5,839	2,655	2,776	3,363	2,808	3,027	2,724	3,435	3,919	41,794

(12) 「史料所在情報・検索」システム

18 年										19 年			合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
検索件数	216	420	327	414	243	312	313	229	122	159	220	157	3,131

(13) 史料情報共有化データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
検索件数	322	443	562	517	281	329	280	453	344	346	358	358	4,583

(14) 伊豆韮山江川家文書データベース、6 月 29 日から公開

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
利用回数	—	—	1,062	1,225	4.5	481	234	514	371	327	607	832	6,058

(15) 日本古典文学本文データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
新規登録者数	53	88	100	63	37	49	71	66	56	50	45	36	714
検索件数	2,634	4,137	4,757	4,315	2,799	3,747	6,217	6,529	7,320	5,818	2,022	2,014	52,309

(16) 二十一代集データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
検索件数	3,329	3,744	4,530	4,548	2,632	3,080	5,736	4,710	3,886	5,184	2,959	1,605	45,943

(17) 吾妻鏡データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
検索件数	464	576	502	526	340	402	940	748	700	848	337	130	6,513

(18) 絵入り源氏物語データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
検索件数	369	394	642	358	246	238	624	382	320	506	191	66	4,336

(19) 古事類苑データベース、6 月 29 日より公開

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
ページ閲覧数	—	—	909	9,900	6,801	3,929	4,076	4,378	6,335	4,539	4,539	4,876	51,100

(20) 歴史人物画像データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
ページ閲覧数	10,854	13,095	26,654	43,158	31,106	22,634	25,541	33,767	38,815	45,132	36,971	34,858	362,585

(21) 新奈良絵本画像データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
検索件数	140,846	69,386	74,452	76,763	65,200	54,126	77,852	72,705	91,227	102,988	83,128	80,193	888,866

(22) 実業史絵画データベース

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
* ログ収集方法検討中													

(23) 館蔵和古書画像データベース、6 月 29 日から公開

18 年										19 年			合計
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		1 月	2 月	3 月	
検索件数	—	—	119	596	332	627	671	864	1,042	683	613	657	6,204

データベースサービスシステム総合窓口教務 件数

18 年										19 年			合計
種類	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
Web 受付	12	4	6	2	13	5	7	11	6	4	3	10	83
e-mail 受付	4	0	4	3	4	0	3	6	5	1	3	5	38
窓口電話受付数	6	8	6	11	5	4	11	3	6	5	9	5	79

* レファレンス詳細については、情報資料サービス事業部資料を参照

3. 普及・連携活動事業部

【総括】

普及・連携活動事業部は、講演、展示、シンポジウム、セミナー等の各種イベントを通じて、館の学問的成果を広く社会に還元し、社会貢献を具体的に実現することを任務とする。国際的連携を多様に行う館の取り組みも盛り込み、その活動はそのまま国際社会への貢献となっている。

平成 18 年度に実施した普及・連携活動事業部の事業は、以下に示すとおりその目的を十分に達成することができた。さらに今後、中期計画の進行によって得られる諸々の研究成果を確実に受け止め、価値ある発信を充実させ、整備していく予定である。

【連続講演】

(1) 概要

日本文学の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、特定の作品について、第一線で活躍している研究者による連続講演を開催した。連続講演は、平成 12 年度から毎年開催し、全 5 回の講演で構成されている。平成 18 年度は、「王朝物語山脈の眺望」のテーマで、跡見学園女子大学文学部教授・神野藤昭夫氏による連続講演を行った。例年、聴講の申込者が多く、今回も多数の中から抽選となり、各回 150 名前後の参加者があった。平安時代を中心とした物語の流れをわかりやすく具体的に語り、受講者は巧みな語り口に聞き入った。第 3 回目には、当館所蔵の物語のミニ展示も行った。最終回には、講師の神野藤氏が受講者の前で狩衣姿となる過程を実演し、そのままの姿で講演するなど、王朝の香り漂う中での講演会となった。この講演内容は、笠間書院から『古典ルネッサンス』シリーズとして刊行の予定である。

(2) 活動記録

テーマ：王朝物語山脈の眺望

講師：神野藤昭夫（跡見学園女子大学文学部教授）

日程：第 1 回 9 月 25 日（月）

新たな物語の時代像—知られざる物語山塊の発見 170 名

第 2 回 10 月 2 日（月）

古伝承から初期物語へ—最初の峰々と東アジア文化圏の波動 137 名

第 3 回 10 月 16 日（月）

『伊勢物語』の物語史—歌物語とその尾根の行方 142 名

第 4 回 10 月 30 日（月）

『源氏物語』の想像力と紫式部の知的坩堝—物語の山嶺の形成 147 名

第 5 回 11 月 13 日（月）

天喜三年斎院歌合「題物語」の復原—物語文化山脈の輝き 147 名

場所：当館 1 階大会議室

参加者数：743 名（延べ）

参加者内訳：大学院生 3 名、学部学生 2 名、高校生 1 名、一般社会人 131 名

【シンポジウム】

(1) 概要

日本文学の普及を図るためシンポジウムを開催するもので、平成 18 年度は、春季と秋季の 2 回、シンポジウムを開催した。

春季シンポジウム「表現としての「やつし」と「みたて」」は、平成 18 年 5 月 17 日（水）に開催。春季特別展「「みたて」と「やつし」—浮世絵・歌舞伎・文芸」と連携した形で、展示期間中に開催したもので、また、当館の文学形成系の研究プロジェクト「近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」の研究成果発表の一環として開催されたものである。浮世絵の見立てとやつしの定義、小説の見立ての用例、民俗学からのやつしの考察など内容は多岐にわたり、活発な討議が行われた。入場者も多く、海外からの参加者もいて、アンケートの結果も好評であった。最新の研究成果を広く一般の古典愛好者や研究者に披露し、その理解・関心を深めるという所期の目的を十分に果たした。なお、シンポジウムの内容は、年度末に刊行の『〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書』第 3 号に収録した。

秋季シンポジウム「江戸から明治へ—仮名垣魯文を中心として—」は、平成 18 年 10 月 20 日（金）に開催。秋季特別展「仮名垣魯文百覧会」と連携した形で開催したもので、また、当館の複合領域研究系「開化期戯作の社会史研究」プロジェクトによる研究成果の一環として開催したもの。これまで戯作者から明治の新しい世界に順応した著作者へと転向したとされてきた魯文像に対して、多角的に再検討を試みた意欲的なシンポジウムであった。関連領域を含めた多くの研究者・文学愛好者が集い、活発な討議が行われた。

(2) 活動記録

① 春季シンポジウム

開催日時：平成 18 年 5 月 17 日（水）14 時 00 分～16 時 30 分

テーマ：表現としての「やつし」「みたて」

場 所：当館 1 階大会議室

題目とパネラー：「浮世絵にみる見立」	新藤 茂（国際浮世絵学会常任理事）
「戯作の見立」	延広眞治（帝京大学教授）
「ヤツシの源流を探る」	加藤定彦（立教大学教授）

入場者数：176 名

② 秋季シンポジウム

開催日時：平成 18 年 10 月 20 日（金）16 時 00 分～18 時 00 分

テーマ：江戸から明治へ—仮名垣魯文を中心として—

場 所：当館 1 階大会議室

題目とパネラー：「魯文の時勢順応主義を考える」	佐々木亨（徳島文理大学教授）
「憧憬と継承—魯文の果たしたこと」	山本和明（相愛大学教授）
「魯文 vs. 諭吉」	青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）

入場者数：80 名（内訳：大学生・院生 18 名、大学・研究機関関係者 25 名、一般社会人 37 名）

【展 示】

(1) 概 要

館蔵の古典籍や他機関所蔵の貴重な古典籍などを展示し、研究教育の向上に努めつつ、一般に対する普及を図ることを目的として、通常展示、特別展示を開催している。専門の研究者・学生及び一般の愛好者を対象として、当館が収集した古典籍や他機関所蔵の古典籍を、テーマに沿っ

て随時公開し、研究・教育の向上と、一般への普及を図ることを目的として、以下の展示を開催した。

春季特別展「「みたて」と「やつし」―浮世絵・歌舞伎・文芸」。当館の文学形成研究系の研究プロジェクト「近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究」の研究成果発表の一環として開催されたもの。文学・絵画・演劇など様々な分野で日本人がとってきた表現方法に、「みたて」「やつし」がある。「みたて」は一つのを別のものになぞらえること、「やつし」は昔の権威あるものを現代風に卑近にして表すことを言うが、今回の展示では、江戸時代の文学をはじめ、浮世絵や歌舞伎にいたるまで、様々な分野で見られる「みたて」と「やつし」を所蔵資料を中心に浮世絵・版本など75点を展示した。「朝日新聞」（5月23日付朝刊）などに紹介されたこともあり、連日、多くの観覧者が訪れた。

秋季特別展「仮名垣魯文百覧会」。日本文学研究史において空白部分を多く残す幕末・明治開化期文学に照明を当て、新た研究動向を開拓する試みとして、当時の戯作界の雄と目される仮名垣魯文を取り上げた。〈江戸の残照〉〈開化の寵児〉〈報道する戯作者〉〈魯文の交友圏〉等、テーマごとに6ブロックに分けて資料を展示。戯作者魯文が生きた波乱と変動の時代とともに、彼の文業を通覧したもの。特に今回、これまで未公開となっていた毎日新聞社新屋文庫の資料を多数借用することができた。新屋文庫は、元毎日新聞記者の新屋茂樹氏が半生をかけて収集した幕末から明治期の新聞・雑誌など約1,000点のコレクションで、400点を超える錦絵新聞は日本屈指のコレクションと言われている。新屋文庫の初公開という話題性もあり、「毎日新聞」東京版（10月25日付朝刊）、「朝日新聞」（10月30日付夕刊）に大きく取り上げられた。新聞掲載後は、連日、多くの観覧者が訪れた。

(2) 活動記録

① 春季特別展

日 程：平成18年5月10日（水）～6月1日（木）

テーマ：「みたて」と「やつし」―浮世絵・歌舞伎・文芸

場 所：当館2階展示室

入場者：1,342名（1日平均78.9名）

② 秋季特別展

日 程：平成18年10月17日（火）～11月2日（木）、9日（木）、10日（金）

テーマ：仮名垣魯文百覧会

場 所：当館2階展示室

入場者：991名（1日平均66.1名）

【アーカイブズ・カレッジ】

(1) 概 要

多様な史資料を取扱う専門の人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年1回開催しており、また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当するアーカイブズ研究系教員を中心にカリキュラム研究会を開催している。

長期コースは、前期7月3日（月）から4週間、後期8月28日（月）から4週間の日程で国文学研究資料館において開催し、昨年度からの継続履修生（複数年度分割履修生）11名を含め合計52名が履修した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は15名、大学院生は37名であった。定員は35名だが、国内には類似の研修会がなく本カレッジへの参加希望が強い

ため、申込者全員を受け入れることにしたものである。なお今年度、長期コースの全6科目を修了した履修生は45名で、うち43名が修了論文を提出し、全員が審査に合格した。

短期コースは、11月13日(月)～18日(土)に岡山県衛生会館・岡山県立記録資料館(岡山市)で開催され、31名が履修した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は29名、大学院生は2名であった。今年度短期コース履修生に対するアンケートによれば、授業科目の構成については、「かなり適切」「どちらかといえば適切」を合わせ86%、授業の方法については、「かなり適切」とするものが50%で、「どちらかといえば適切」とした者を加えると参加者の97%と、高い満足度を示し、高い評価を得ている。一方で、広報については「かなり適切」が17%しかなく、13%が「改善の余地がある」としている。これらの批判については来年度以降の運営改善に生かしたい。なお、カリキュラム等の改善を図るための研究会は、アーカイブズ研究系教員を中心に5回開催した。

(2) 活動記録

① 長期コース

日 程：平成18年7月3日(月)～28日(金)、8月28日(月)～9月22日(金)

場 所：当館1階大会議室ほか

受講者：48名

② 短期コース

日 程：平成18年11月13日(月)～18日(土)

場 所：岡山衛生会館ほか

受講者：31名

後 援：岡山大学文学部

【日本古典籍講習会】

(1) 概 要

図書館司書を対象として、日本古典籍に関する専門知識や取扱方法・目録及びデータベース化の方法について、講習を年1回開催している。日本の古典籍を所蔵する機関の図書館員等を対象とした3日間にわたる講習会で、今年度も国立国会図書館との共催により国立国会図書館を会場として実施した。内容は日本古典籍の基礎知識、和古書目録の作成、データベース化の方法、近世の出版と流通、くずし字の読み方、蔵書印の見方・読み方などの講義、当館及び国立国会図書館の和古書目録の現状、目録規則の説明、古典籍資料の保存・管理法、貴重書紹介、書庫の見学などである。古典籍資料取扱経験3年以内の方を対象とし、現物を用いての実習を始めとして、講義でも現物を提示しながらの説明が多く好評である。全国には、古典籍を所蔵しながらも、整理・保存・目録化が進んでいない機関が多く、この講習会は、古典籍の整理・保存・目録化を促進するため、基礎知識を講義し、各機関が所蔵目録を共有化できるよう情報を提供することを目的としたものである。今年度は、大学図書館・公共図書館などから71名の応募があったが、古典籍を用いた実習もあり、30名程度に絞らねばならなかった。

(2) 活動記録

日 程：平成19年1月17日(水)～19日(金)

場 所：国立国会図書館

受講者：32名(内訳：国立大学図書館8名、公私立大学図書館14名、公共図書館10名)

【国際日本文学研究集会】

(1) 概 要

国内外の研究者の交流を深め、より広い視野から我が国の文学の研究を発展させることを目的として、年1回開催している。第30回国際日本文学研究集会を実施するため、国際日本文学研究集会委員会を2回開催し、実施計画の策定、招待研究発表者の採択などを行った。11月9日、10日の2日間にわたった研究集会では、「表象と表現」というテーマをめぐって、13人の研究発表、4人のポスターセッション発表と Ahmed MOSTAFA 氏（カイロ大学助教授）の公開講演といった、計18人にも及ぶ発表・講演が行われ充実したプログラムであった。参加者は136人、このうち海外及び国内に在住の11ヶ国の外国人研究者33人が参加した。活気あふれる研究発表と、会場における活発な質疑応答は、出席者に多くの刺激を与えることができた。海外における日本文学研究者との交流、国内に滞在する留学生の支援を目指して発足した本集会は、今年30回目の開催となり、日本文学研究の国際化の促進に対する貢献が高く評価された。また、集会の後、委員会の外部委員から、「本集会のほとんどの発表が年々レベルが上がっており、日本国内の各時代・各ジャンルの全国学会で発表しても遜色のないほど良質の若手研究者がこの集会に集っている」、「全体として資料を使つての実証に裏づけられたオーソドックスなものが多く、海外での日本文学研究が従来ともすると資料の不足を理論で補うという傾向があったことを考えると、そうした格差が良い意味で縮まってきた」などの感想が寄せられた。年度末に『第30回国際日本文学研究集会会議録』を刊行した。

(2) 活動記録

日 程：平成18年11月9日(木)～10日(金)

場 所：当館1階大会議室

テーマ：表象と表現

参加者：136名（内訳：日本103名、外国籍33名）

講 演：果たして戦後が終わったのか—日本戦後文学史読み直しへの試み—

Ahmed MOSTAFA

研究発表：『通俗忠義水滸伝』をめぐる諸問題

中村綾

『三国志画伝』における『通俗三国志』の解釈—挿絵を手掛かりとして—

梁蘊嫻

江戸時代庭園における西湖景観の表象と表現—漢詩文史料の考察を通して—

李 偉

馬琴の黄表紙における表象と表現の類型に関する試論

Kristian BERING

<膝栗毛もの>絵双六の表象と表現

康志賢

「伎楽」追跡考—東アジア仮面劇・芸能研究の一端として—

徐禎完

見ぬ人見ぬ世見ぬ境—和歌の幻想される場所として—

王軍合

惜別の抒情—『古今和歌集』源実の惜別の歌群と「をり」の表現意図—

江藤高志

『伊勢物語器水抄』における秘伝の意義—帰納的なアプローチによって—

Jamie NEWHARD

従軍と「写実」—国木田独歩の「朝鮮」記事を中心に—

水野達朗

日本語時代の台湾文学—短歌結社「新泉」と宇野覚太郎—

頼衍宏

葛藤する「郷土」—呉希聖「豚」における植民地台湾の表象—

吳亦昕

「記憶・忘却」装置としての文学—戦後初期中学校「国語科」教科書を中心に—

朴貞蘭

ポスターセッション：

『古今和歌集』における桜歌についての考察

関 士

大正大学蔵「源氏物語」の書写環境について

唐暁可

韓国語訳『源氏物語』に於ける巻名の付け方について

李芝善

日本文学におけるタイ表象—オリエンタルなロマンスを求めて—

Methate NAMTHIP

【子ども見学デー】

(1) 概 要

小学生を対象とした「子ども見学デー」は、平成 16 年度から実施しているもので、今回が 3 回目である。平成 18 年度は 8 月 22 日（火）に開催した。参加者は、地元・品川区の「広報しながわ」「ケーブルテレビ品川」で紹介されたこともあり、品川区内の小学生と保護者、それに職員の子ども（小学生）合わせて 29 名が参加した。「昔の遊びと昔の本」では、芝居見物の様子や子供たちはどんな遊びをしていたか、画像を使つての説明が行われ、「江戸時代の勉強法」では、寺子屋の様子や江戸時代の習字の手本を紹介し、昔の人がどのように文字を覚えたのか、机の実物や様々なソロバンを見せながら説明を行った。休憩時間には、江戸時代の本に直接触れるなどして、親子揃って昔の本に親しんだ。

(2) 活動記録

日 程：平成 18 年 8 月 22 日（火）14 時 00 分～ 15 時 30 分

場 所：当館 1 階大会議室

内 容：「昔の遊びと昔の本」武井協三（当館教授）

「江戸時代の勉強法」青木睦（当館助教授）

参加者：29 名（内訳：子ども 15 名、保護者 14 名）

4. 情報資料サービス事業部

【総括】

平成 18 年末（12 月 27 日）に、従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合した「日本古典籍総合目録」データベースを公開した。今後はこれを柱として、当館の他のデータベースとのリンク形成を目指したいと考えている。

本年度はまた、昨年度以来準備を進めてきた「館蔵和古書画像データベース（試行版）」を公開した。本データベースには、約 5,600 件のデジタル画像（モノクロ）が登録され、簡易目録を利用して検索できるようになっている。これに続いて、来年度には館蔵貴重本（カラー）等のデジタル画像の配信が予定されるなど、資料の画像化は、本格的に進行し始めている。

その他、歴史資料閲覧室を日本文学閲覧室の中に移動して、利用窓口の一本化による導線の不備を解消し、遠隔地利用者へのサービス強化のため、紙焼写真本・図書貸出限度冊数を拡大し、個人による直接の複写申込が可能であることなど、広報の徹底に努めた。

反面、館内アスベスト除去工事により、平成 19 年 1 月から 3 月までの 3 ヶ月間、閲覧室及び書庫を閉鎖したことは、図書館事業のみならず、館全体にとっても影響が大きかったが、事前の周知により前倒し利用を図り、年間の来館利用者数の減少には必ずしも繋がらなかった。来年度は立川移転を控えているが、利用者への迷惑を最小限に食い止めるよう、さらに工夫を重ねたい。

図書資料の収集・受入・整理は従来どおり行っているが、本年度は図書資料委員会の機能を重視し、本委員会の議論に基づいて体系的収集に努めた。調査収集とマイクロ資料目録作成とのタイムラグは、現在、平成 22 年をもって全て解消する予定で作業を進めている。

【図書資料の収集】

(1) 概要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画をたて収集している。加えて、昨年度からは館として特色あるコレクションを形成し、広く普及利用を図っていく方針を確認し、蔵書の充実に努めている。今後はこれらのコレクションの存在を積極的にアピールし、利用を広めていくことが懸案である。

(2) 活動記録

- ① 図書資料の体系的な収集に努めた。受入統計は以下のとおりである。

資料 1 図書資料受入統計

資料種別		日本文学関係				歴史関係			
		点数等		冊数等		点数等		冊数等	
		平成 18 年度	累積	平成 18 年度	累積	平成 18 年度	累積	平成 18 年度	累積
収蔵マイクロ資料	マイクロフィルム	3,456 点	178,441 点	459 リール	40,084 リール	6 件	186 件	369 リール	5,808 リール
	マイクロフィッシュ	0 点	16,667 点	0 枚	57,358 枚	—	—	—	—
	紙焼写真本	—	—	5,875 枚	74,169 冊	—	—	4 冊	11,038 冊
図書	写本・版本	616 点	9,856 点	1,613 冊	34,726 冊	—	—	—	—
	活字本・影印本等	—	—	4,809 冊	89,469 冊	—	—	1,028 冊	60,030 冊
	逐次刊行物	1,325 誌	5,180 誌	3,282 冊	163,157 冊	—	—	2,076 冊	60,687 冊
所蔵史料		—	—	—	—	* 5 件	412 件		約500,000点
寄託資料・寄託史料		1 件 2 点	6 件 1,145 点	2 冊	4,611 冊	1 件	18 件	516 件	7,304 点

* 「台湾神社誌」「和寿礼奈佐」ほか計 4 件が寄贈された。

② 3 件 2,354 冊の図書、4 件の文書群の寄贈、ならびに 2 件 518 点の寄託資料の受け入れを決定した。(日常的な郵送による寄贈を除く。)

資料 2 主な寄贈・寄託資料

申込種別		所蔵者	内容	点数	区分
寄贈	追加	松野 陽一	松野陽一蔵書（研究書等）	237 冊	国文
寄贈	追加	福田 秀一	日本文学翻訳書	2,107 冊	国文
寄託	継続	板倉 勝宏	陸奥国福島板倉家文書	516 件	歴史
寄託	新規	妹尾 則治	伊勢物語	2 点	国文

③ 源氏物語に関する資料を、近世以前の原本から近現代の口語訳やアニメーションに至るまで幅広く収集し、将来「源氏文庫」として公開する計画をたて、今年度は原本 8 点を購入した。

資料 3 源氏文庫購入資料

書 名	注 記	数 量
源氏物語淡彩白描画	江戸中期画 淡彩	54 枚
源氏物語絵巻	桃山末期筆彩色大図 24 図	1 軸
源氏物語歌寄せ	写本	2 冊
源氏歌かるた		1 点
源氏双六		1 枚
源氏物語歌合絵巻	〔室町後期〕写	1 軸
源氏物語系図	南北朝時代写 伝二条為氏筆	1 軸
源氏物語団扇画帖	江戸中期画	1 帖

【図書資料の受入・整理】

(1) 概 要

定常的な図書資料の受入・整理のほか、当館名誉教授故福田秀一氏旧蔵日本文学の翻訳図書約 2,000 点の受入、懐風弄月文庫・長谷章久旧蔵書・寄託資料の松野陽一氏蔵書・坂田穂好氏古筆

切コレクションの整理を行った。

マイクロ資料・和古書の目録作成に関しては、今年度から新たに収集デジタル資料の書誌データ作成を開始した。平成 22 年度までに滞貨を解消する計画に基づき、毎年、2 年分の収集点数にあたる約 7,000 件のデータ作成・点検及び入力を行い、遅滞解消に努めている。また、普及・連携活動事業部による日本古典籍講習会で、古典籍の整理方法について、当館データベースを利用した目録作成の普及を図っている。

(2) 活動記録

以下の活動を行った。

① 貴重書・特別コレクションの指定

新たに貴重書 3 点、特別コレクション 1 件を指定した。

資料 4 新指定貴重書・特別コレクション

項目	請求記号・文庫番号	書名・コレクション名	備 考
貴重書	99-118	隅田川榎屋図	1 枚
	99-119	小男の草子	奈良絵巻 1 軸
	99-120	隅田川両岸一覽	1 軸
ク特別 シヨ ンレ	93	長谷章久旧蔵書	平安物語を中心としたコレクション。125 点 375 冊。

② 資料の整理・目録作成

a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 約 6,200 件*
- ・書誌データ登録 約 7,000 件*
- ・データベース移植時の未コントロール分処理 約 5,000 件

*収集デジタル資料目録データ約 700 件を含む

資料5 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者・文庫名	サービス区分	リール番号	件数
20	宮内庁書陵部	A'	631-652	284
26	酒田市光丘文庫	A'	440-460	99
33	国立国会図書館支部東洋文庫	E	紙焼写真	356
48	名古屋市蓬左文庫	B	501-539	62
99	土佐山内家宝物資料館	A	605-619	115
238	法政大学能楽研究所（鴻山文庫）	D	206-215	937
260	東京都立中央図書館（東京誌料）	B'	87-109	77
272	弘前市立図書館	A	268-303	217
281	盛岡市中央公民館	A	778-921	409
296	尊経閣文庫	E	紙焼写真	9
305	愛知県立大学附属図書館	B	149-221	842
321	鎌田共済会郷土博物館	B	123-137	49
324	新潟大学附属図書館（佐野文庫）	B'	240-262	105
333	仙台市民図書館	A	89-94	30
347	糸魚川市歴史民俗資料館	C	38-49	102
348	南方熊楠顕彰会	B'	1-97	271
355	諏訪市図書館	A	36-64	225
357	東京大学文学部宗教学研究室	A	105-149	251
358	肥前松平文庫	A'	86-114	235
359	大阪天満宮御文庫	A'	1-13	454
362	黒川村公民館	A	50-74	70
363	鳥取県立図書館	A	1-79	172
364	大洲市立図書館	A'	13-39	88
366	長崎大学附属図書館経済学部分館	A	1-11	62
セ1	善通寺宝物館	A	113-156	261
ホ4	宝山寺	A	1-15	334
マ6	益田家	A	158-179	204
ミ2	光藤益子	A	30-39	41
TMKC	富加町郷土資料館	Y	デジタル	481
EMSK	愛知大学附属図書館（鈴鹿文庫）	Y	デジタル	185
				7027

- b. 和古書・明治期資料の整理
- ・和古書の整理

911 点
- ・明治期資料の整理

331 冊
- ・和古書目録書誌データ作成（登録）

1,318 件
- ・明治期資料の廻及入力

1,095 冊
- c. 活字本・影印本の整理
- ・活字本・影印本の目録作成

3,094 冊
- d. アーカイブズ関係図書等の整理

・図書目録作成	1,184 冊
・アーカイブズ学関係雑誌整理	2,076 冊

【資料の保存】

(1) 概 要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。

(2) 活動記録

① 文書・記録類の保存・修復処置

『所蔵史料目録』刊行後の史料について以下の保存・修復処置を実施した。

- a. 本格的保存措置（閲覧用識別ラベル貼付、中性紙封筒・帙等への収納と状態調査記録作成、部分的修復処置）…… 3,538 点

（「武蔵国大里郡大麻生村古沢家文書－3」「信濃国水内郡五箇村水野家文書」等）

- b. 簡易的保存措置（保存容器への収納）……段ボール約 3,700 箱

アスベスト除去工事時の史料移動及び立川移転準備として、史料の状態確認・汚れの除去後、段ボール箱に収納するという方法で効率的に作業を行った。

次年度も継続的に作業を行い 10 月頃までに終了させる。

- c. 部分的修復処置（部分裏打ちと紙継剥離貼り合わせ）…… 174 点

利用者の撮影希望に対して厚手の簿冊史料について処置を施した。

（「近江国蒲生郡鏡村玉尾家文書」等）

② 古典籍原本の保存・修復処置

- a. 新収資料の燻蒸

二酸化炭素、無酸素による燻蒸を夏期に実施した。

- b. 補修

懐風弄月文庫『新古今和歌集』（江戸中期写 4 冊）・『新古今和歌集抄』（江戸中期写 1 冊）、『新編塵劫記』（刊 1 冊）、『水鏡山鳥奇譚』（刊 6 冊）、『於歳玉毬唄絵解』（刊 1 冊）、『仮枕巽八景』（刊 1 冊）の補修を専門家に依頼した。

【利用者サービス】

(1) 概 要

① アスベスト工事による利用休止

閲覧室・書庫のアスベスト工事のため、1 月～3 月、資料利用サービスを休止した。利用者には不便をかけたが、事前に周知し、開室期間中にある程度の前倒し利用を図ることができたと思われる。

② 歴史資料閲覧室の移動

平成 17 年度に、日本文学と歴史に分かれていた利用窓口を一本化したが、閲覧室は以前と同じ場所であり、歴史資料閲覧者の利用に不便をかけていた。このため、歴史閲覧室を日本文学閲覧室の中に移動し、これを解消した。

③ 遠隔地の利用者へのサービス

外部評価委員会からの、遠隔地在住の利用者に対するサービスが十分でない、との指摘を受け、紙焼写真本の利用拡大の可能性を検討した結果、現在ただちに出来ることとして、図書館を通じての紙焼写真貸出限度冊数を、従来の、紙焼写真本・図書の合計 10 冊以内から、紙焼

写真本 10 点 20 冊、図書 10 冊（合計 30 冊）以内に拡大した。

同時に遠隔地に対するサービスについて、個人での直接複写申込を含め、広報記事を出し、周知普及を図った。

④ 和古書画像公開

6 月末から所蔵している和古書のうち約 5,600 点のモノクロ画像を「館蔵和古書画像データベース」として公開し、6,204 件の検索があった。また、今後、館蔵の貴重書や収集デジタル資料の公開に向けて準備を進めている。次年度は、まず富加町郷土資料館と愛媛大学附属図書館（鈴鹿本）所蔵資料の収集画像の公開を予定している。

⑤ セルフコピーサービスの利用

平成 17 年 12 月から開始したセルフコピーサービスの利用希望が多く、台数増加、複写受付時間延長の要望があった。これについては、サービス体制、場所の制約があるため、立川移転後に利用状況をみて実施することを検討している。

(2) 活動記録

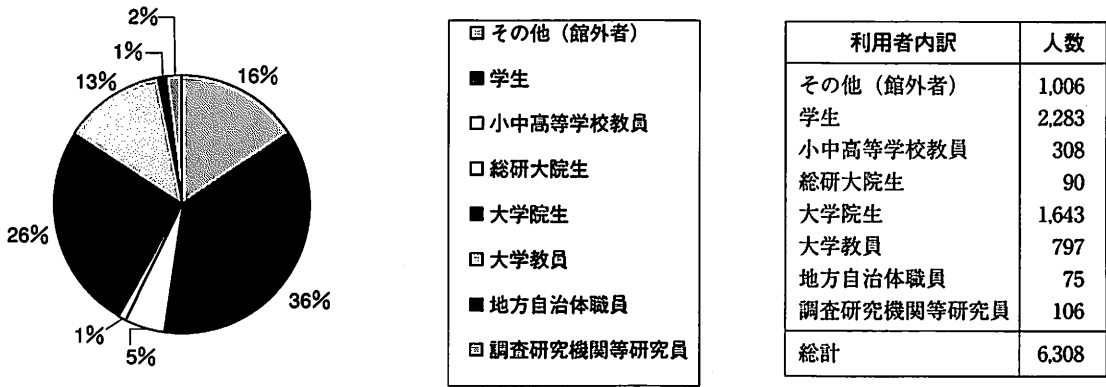
① 資料の閲覧及び複写

閲覧及び複写の実績は以下のとおりであった。

資料 6 来館利用者数

項 目	人 数
開室日数	175 日
登 録 者	1,766 人
入 室 者	6,308 人

資料 7 来館利用者の構成



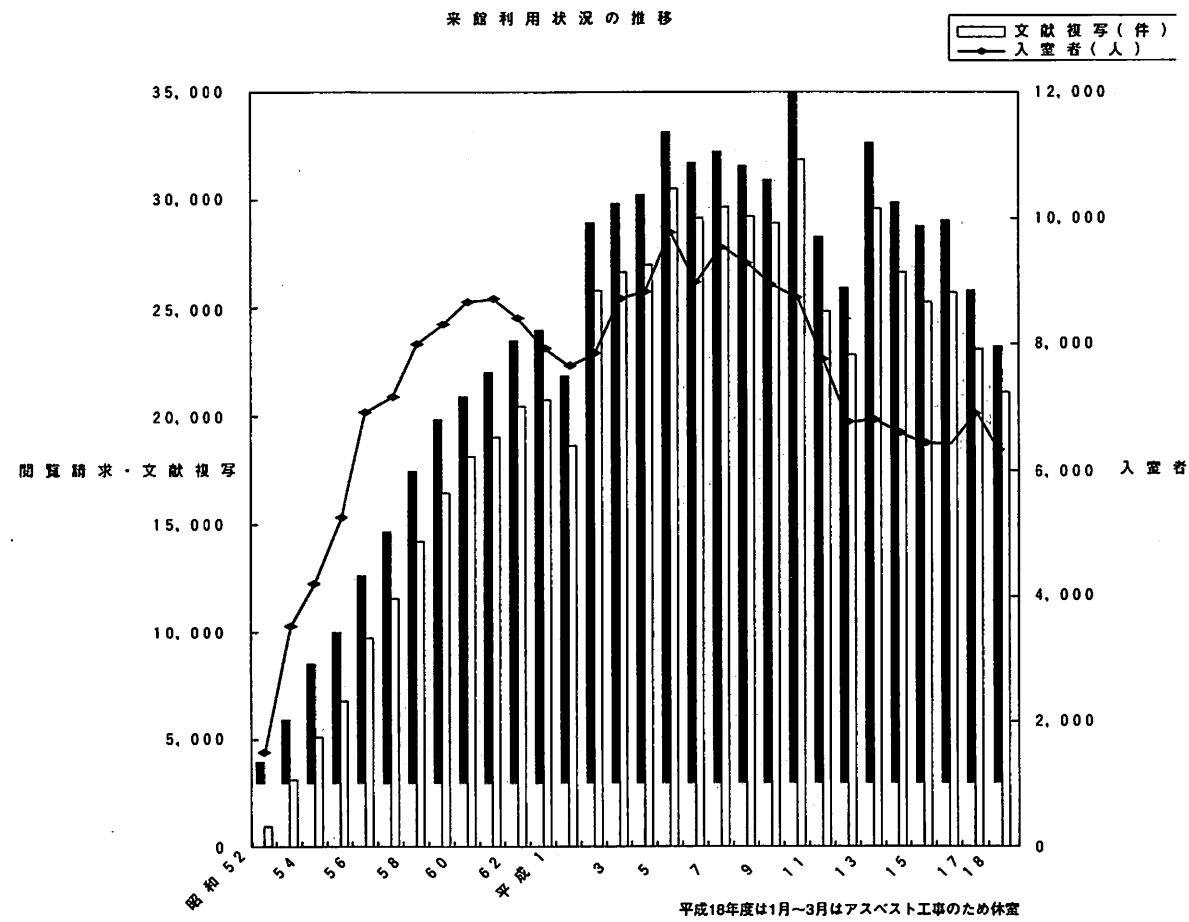
資料 8 資料出納点数

項 目	数 量		
	日本文学	歴史	合計
図 書	5,116	391	5,507
逐次刊行物	5,414	111	5,525
ポジフィルム	3,169	—	3,169
紙焼写真本	3,169	549	3,718
史 料	—	13,510	13,510
紙焼写真本一夜貸し	34	—	34

資料 9 文献複写

項 目	数 量		料 金
単位	件	枚 (コマ)	円
電子複写	19,164	123,056	2,820,425
(内セルフコピー)	12,243	94,369	943,690
RP による電子複写	2,281	83,116	3,197,740
紙焼作製	65	4,876	494,125
フィルム複製	19	4,075	59,775

参考資料 来館利用状況の推移



② 相互協力サービス

相互協力サービスを以下のとおり行った。

資料 10 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
賃貸	図書	18 件、29 点、29 冊		15 件 15 点
	紙焼写真	18 件、43 点、51 冊		
複写	電子複写	4,093 件	29,059 枚	37 件
	RP による電子複写	631 件	55,792 枚	23 件
	フィルム複製	4 件	593 コマ	7 件
	紙焼作製	220 件	11,782 枚	22 件

③ レファレンス・サービス

以下のレファレンス・サービスを行った。

・ 文書による質問	23 件
・ 電話等による質問	2,657 件
（内訳）所蔵調査	843 件
利用についての問い合わせ	1,443 件
クイック・レファレンス	371 件

④ 掲載許可申請受付（今年度決済分）

・ 翻刻掲載	30 件
・ 写真掲載	162 件

⑤ 資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの）

資料 11 展示貸付一覧

貸出機関	展示内容	展示時間	貸出資料	点数
東京大学教養学部美術博物館	江戸の声／黒木文庫でみる音楽と演劇の世界	平成18年4月	古今操便覧 ほか	2
富士見市立資料館	難波田城のすべて	平成18年4月	城築規範（陸奥国弘前津軽家文書のうち）	1
愛媛県美術館	魚のすがた—みる・釣る・喰う・祈る—	平成18年10月	潮干のつと	1
港区教育委員会	UKIYO-E —名所と版元—	平成18年10月～11月	其姿紫の写絵 ほか	7
財団法人江東区地域振興会 江東区中川船番所資料館	江戸前に生きる～のり・かい・さかな～	平成18年10月～11月	東京湾漁業組合規約（祭魚洞文庫旧蔵水産史料のうち）ほか	2
浜松市博物館	浄円院の旅	平成18年11月	〔村方困窮ニ付貢訴減免之願〕（遠江国引佐郡気賀宿中村家文書のうち）ほか	18
人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	西のみやこ東のみやこ—描かれた中近世都市—	平成19年3月～4月	寛永行幸記 ほか	4

【古典籍総合目録事業】

(1) 概 要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、他方、データベースを公開している。平成 18 年末に従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合し、マイクロ資料目録データも含めた「日本古典籍総合目録」データベースの公開にこぎ着けた。また、今年度から、課題としていた古典籍関連データのリンク形成に着手した。

資料 12 古典籍総合目録データベース利用件数

※電子情報事業部 付表 2（44 ページ）を参照。

	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18
国書基本データベース (著作編)(アクセス件数)	4,713	9,964	14,667	10,730	13,087	43,122	80,621	91,830	61,866
古典籍総合目録データ ベース (アクセス件数)	—	—	—	—	—	4,476	48,596	64,438	70,015
日本古典籍総合目録 (検索件数)	—	—	—	—	—	—	—	—	102,022

(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ① データソース収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）
- ② 書誌データ作成（登録） 約 18,000 件

資料 13 古典籍総合目録データ作成 所蔵者・目録一覧

	所蔵者	コレクション		データ件数
1	宮城県図書館		宮城県図書館和古書目録（平成 3 年刊）	1,104 （入力中）
2	〃	小西文庫	宮城県図書館蔵 小西文庫和漢書目録（昭和 58 年刊 特殊文庫目録 第 1 冊）	447 （入力中）
3	川越市立中央図書館		川越市立中央図書館収蔵和漢古書目録（平成 16 年刊）	221
4	中央大学図書館		中央大学所蔵狂歌関係書解題目録（平成 17 年刊）	14
5	東京大学文学部国語研究室		東京大学文学部国語研究室所蔵 古写本・古刊本目録（昭和 61 年刊）	4, 420 （入力中）
6	法政大学図書館	正岡子規文庫	法政大学図書館蔵正岡子規文庫目録（平成 8 年刊）	325 (1,031 中)(入力中)
7	立教大学図書館	江戸川乱歩 旧蔵	乱歩旧蔵近世資料目録（平成 17 年刊『江戸川乱歩旧蔵江戸文学作品展図録』所収）	582
8	相模女子大学附属図書館		相模女子大学附属図書館蔵古典籍目録稿（平成 15 年刊『相模女子大学蔵書でたどる古典文学の世界』所収）	288
9	糸魚川市歴史民俗資料館	木村秋雨翁 収集	糸魚川市歴史民俗資料館所蔵木村秋雨翁収集資料目録（平成 4 年刊）	637 (894 中)
10	豊田市中央図書館		豊田市立図書館和装本目録（平成 4 年刊）	823 (1,594 中)
11	国際日本文化研究センター	宗田文庫	宗田文庫目録 書籍篇（平成 13 年刊）	994
12	〃	野間文庫	野間文庫目録（平成 17 年刊）	4
13	住吉大社		住吉大社御文庫目録 国書・漢籍（平成 15 年刊）	2,419
14	カリフォルニア大学 バークレー校図書館	三井文庫旧蔵	カリフォルニア大学バークレー校所蔵三井文庫旧蔵江戸版本書目（1990）	4,482 （入力中）
15	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校図書館		カリフォルニア大学ロサンゼルス校古典籍カード（*）	6
16	ハーバード燕京図書館		ハーバード燕京図書館和書目録（1994）	1,152 (2,458 中)
	合 計			17,918

*カリフォルニア大学ロサンゼルス校所蔵日本古典籍目録（平成 11 年刊）の追補

- ③ 基礎データ（典拠データ）追加・改訂
- ④ 「日本古典籍総合目録」の公開
- ⑤ 『国書総目録』所在・翻刻複製情報の校正・修正、及び公開（「日本古典籍総合目録」の検索結果で表示）
- ⑥ 古典籍関連データのリンク形成
人間文化研究資源共有化推進事業と関わり、下記のようなデータベース間リンク、デジタル画像へのリンク等に着手した。
 - ・「日本古典籍総合目録」と「欧州所在日本古書総合目録」とのデータベース間リンク形成のため、公開システムの調整とデータの手当てを行った。
 - ・「マイクロ資料・和古書目録データベース」から「日本古典資料調査データベース」及び収集デジタル画像へのリンク形成のため、公開システムの再構築とデータの手当てを行った。
- ⑦ その他（マイクロ資料目録・和古書目録作成と共用する業務データベースシステムの改良等）

【立川移転準備】

(1) 概 要

平成 19 年度 2 月に予定している移転に向け、計画的に作業を進めている。

(2) 活動記録

① 磁気テープ装着作業

立川移転後に図書無断持ち出し防止装置を導入するため、図書に磁気テープを装着する必要がある。今年度は歴史部門の図書・製本雑誌に装着を行った。

② 文書類の段ボール箱への収納

保存と移動を兼ね文書・記録類を段ボール箱に収納する作業を行った。